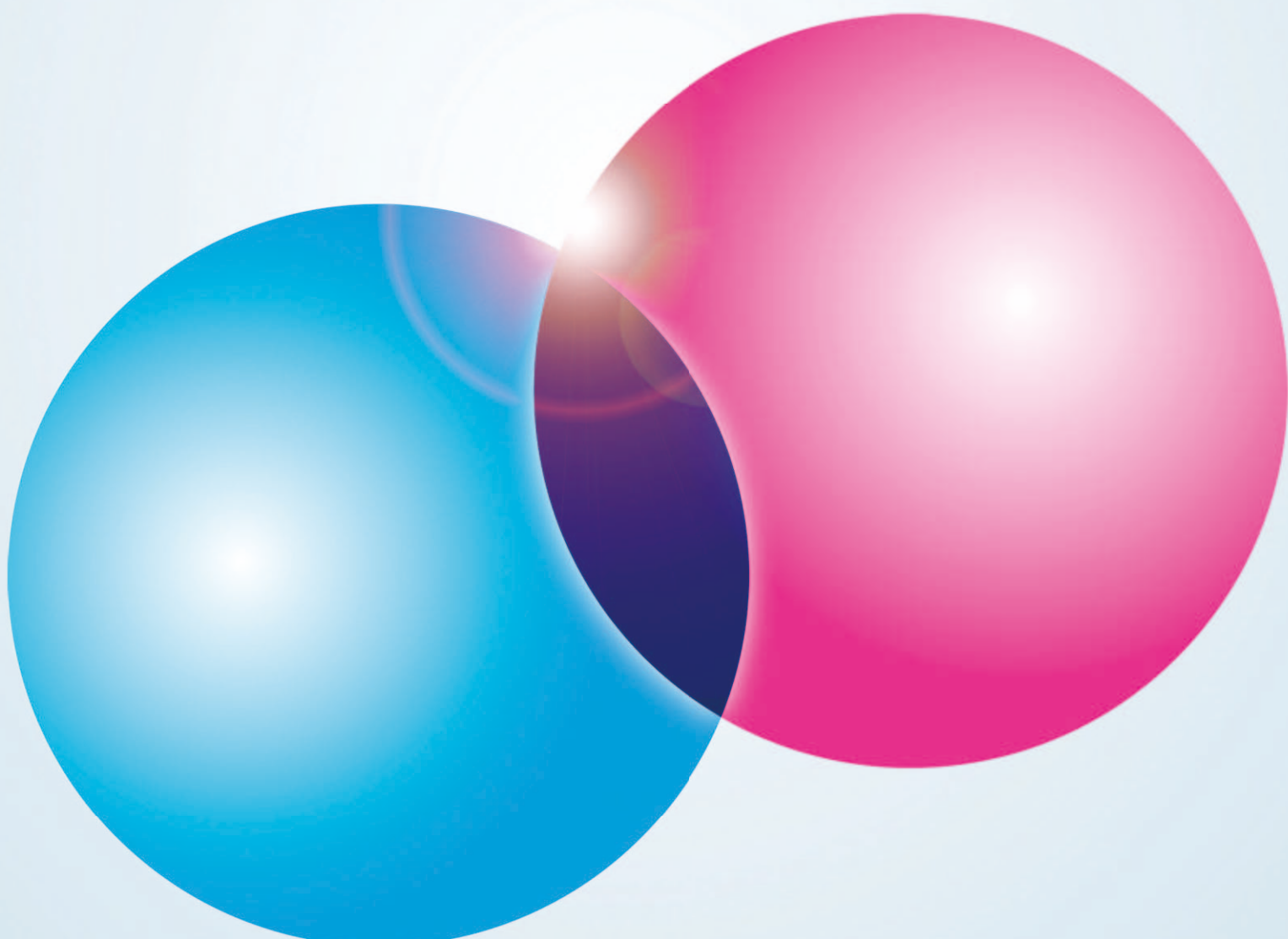


CSR Report

リンテックグループCSRレポート2014



Linking your dreams

リンテック株式会社

INDEX

- 01 編集方針
- 02 リンテックグループの概要
- 04 トップメッセージ
- 06 リンテックグループのCSR

特集 1

- 10 持続的成長を遂げる企業であるために
全社を包括する事業継続マネジメント
システム(全社BCMS)の構築を目指す

- 14 CSR活動テーマと目標・実績

企業統治

- 16 至誠のために

社会性報告

- 18 お客様のために
- 19 お取引先との協働
- 20 従業員とともに
(人権・雇用・人材育成／安全防災)
- 25 地域社会とともに

特集 2

- 26 企業市民として地元の期待に応える
地域に根ざした社会貢献活動

- 28 コミュニケーション

環境報告

- 29 環境マネジメント
- 30 地球温暖化防止
- 32 廃棄物・
用水使用量の削減
- 33 環境負荷物質の削減
- 34 海外グループ12社の
環境保全活動
- 36 リンテックと環境の関わり
- 37 第三者意見

社是

至誠と創造

リンテックグループのCSRの根幹は、
社是「至誠と創造」にあります。
これは、私たちの“あるべき姿”です。

「至誠」とは、どうすれば役に立ち喜ばれるかを考え、
すべての仕事に真心を込めて取り組むことです。
「創造」とは、現状に満足せず、より高い付加価値を求めて
常に工夫と改善に取り組むことです。

あらゆるステークホルダーに誠実であること、
革新の気概を持って新たな挑戦を繰り返していくことが、
“ものづくり”の会社としての原点です。

“すべては「至誠」に始まり「創造」につながる”

私たちリンテックの変わらぬ姿勢であり、
持続的成長を支える原動力です。





編集方針

リンテックグループでは、社是「至誠と創造」を根幹にさまざまなCSR活動を行っており、本レポートでは2013年度の活動を中心に報告しています。全ての方に分かりやすく伝えるため、昨年度のレポートから事業概要や特集ページを増やし、「企業統治」「社会性報告」「環境報告」のページでは主な活動を抜粋してまとめました。

特集はBCMS(事業継続マネジメントシステム)と、社会貢献活動を紹介しています。特集1では2013年度にBCMSの国際標準規格ISO22301の認証を取得し、改めてその活動を振り返りました。特集2では、ステークホルダー*との対話を重ねた社会貢献活動の一事例を紹介しています。

本レポートは、ステークホルダーとリンテックグループ双方にとって、重要性の高い情報を選択し掲載しています。より詳細な情報はCSRサイトを御覧ください。

* ステークホルダー：組織体に対する利害関係者。具体的には、消費者(顧客)、従業員、株主、債権者、取引先、地域社会、行政機関など。

CSR情報を開示する主なメディア

CSRレポート(冊子/PDF版)



【冊子】リンテックグループのCSR活動を、分かりやすく掲載。

【PDF版】英語版を作成。その他、抜粋版を韓国語、中国語(繁体字)、中国語(简体字)、マレーシア語、インドネシア語、タイ語にて作成。



CSRサイト

リンテックグループのCSR活動を、より幅広くより詳細に掲載。

【日本語版】
<http://www.lintec.co.jp/csr/>

【英語版】
<http://www.lintec-global.com/csr/>

WEB このアイコンがある項目は、関連情報をCSRサイトで掲載しています。該当の関連情報は、ページ下の注釈スペースに項目をまとめています。

参考としたガイドライン

ISO26000(社会的責任に関する手引)

GRI「サステナビリティ レポートガイドライン第4版」

環境省「環境報告ガイドライン(2012年版)」

環境省「環境会計ガイドライン(2005年版)」

対象期間

原則2013年4月1日～2014年3月31日を対象としていますが、具体的な取り組み事例の一部には2014年6月までの内容を含んでいます。なお、海外グループ会社12社の環境パフォーマンスデータについては、2013年1月1日～2013年12月31日を対象期間としています。



発行年月

前回発行年月 2013年8月

今回発行年月 2014年8月

次回発行予定 2015年8月

暮らしのシーンで活躍するリンテック

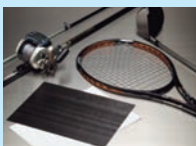
リンテックグループは、幅広い分野で製品を生み出し、世界中のさまざまな地域で、人々の暮らしに貢献しています。



リンテックグループの主な製品



特殊紙



炭素繊維複合材料用工程紙



シール・ラベル用粘着紙・粘着フィルム



プラスチック成形品同質ラベル素材



内装化粧シート



マーキングフィルム



建物用ウィンドーフィルム



自動車用ウィンドーフィルム



半導体関連テープ・装置



積層セラミックコンデンサー製造用コートフィルム



液晶ディスプレイ用フィルム

会社概要 (2014年3月31日現在)

社名 リンテック株式会社 (英文: LINTEC Corporation)
 本社所在地 〒173-0001 東京都板橋区本町23-23
 ホームページ <http://www.lintec.co.jp/>
 設立 1934年10月
 資本金 232億円
 上場証券取引所 東京証券取引所市場第1部 (証券コード: 7966)
 事業年度 毎年4月1日から翌年3月31日まで
 代表者 代表取締役社長/社長執行役員 西尾 弘之
 従業員数 連結: 4,223人 単体: 2,536人
 事業所 営業拠点: 東京、札幌、仙台、北陸(富山県)、静岡、名古屋、大阪、広島、四国(愛媛県)、福岡、熊本
 生産拠点: 吾妻(群馬県)、熊谷(埼玉県)、伊奈(埼玉県)、千葉(千葉県)、龍野、新宮(兵庫県)、小松島(徳島県)、三島、土居、新居浜(愛媛県)
 研究開発拠点: 研究所(埼玉県)
 海外事務所: 上海(中国)

事業内容 粘・接着製品(シール・ラベル用粘着紙・粘着フィルム、マーキングフィルム、ウィンドーフィルム、半導体関連テープ、光学機能性フィルム、ヘルスケア関連製品など)、特殊紙(カラー封筒用紙・色画用紙、特殊機能紙など)、加工材(剥離紙、剥離フィルム、合成皮革用工程紙、炭素繊維複合材料用工程紙など)、粘着関連機器(ラベル印刷機、ラベリングマシン、半導体関連装置など)の開発・製造・販売
 売上高 (2013年度) 連結: 2,032億円 単体: 1,608億円
 営業利益 (2013年度) 連結: 138億円 単体: 83億円

WEB 財務情報などの詳細は、当社IRサイトを御覧ください。
<http://www.lintec.co.jp/ir/>

活躍を支えるグローバルネットワーク

ヨーロッパ

リンテック・ヨーロッパ社
 ーハンガリー事務所
 リンテック・アドバンス・テクノロジーズ
 (ヨーロッパ)社
 ーイスラエル事務所

2社 約30人

日本

リンテック株式会社
 本社 ■
 飯田橋オフィス
 (支店)
 札幌支店 仙台支店 北陸支店
 静岡支店 名古屋支店 大阪支店
 広島支店 四国支店 福岡支店
 熊本事務所
 (工場・研究所)
 吾妻工場 ■ 熊谷工場 ■ 千葉工場 ■
 龍野工場 ■ 新宮事業所 ■*1
 新宮事業所龍野事務所 ■*1 小松島工場 ■
 三島工場 ■*2 土居加工工場 ■*2 新居浜加工所 ■
 伊奈テクノロジーセンター ■ 研究所 ■

リンテックコマース株式会社
 リンテックサインシステム株式会社
 富士ライト株式会社
 リンテックサービス株式会社
 リンテックカスタマーサービス株式会社
 プリンテック株式会社
 東京リンテック加工株式会社 ■
 大阪リンテック加工株式会社

9社 約3,400人

アジア

琳得科(蘇州)科技有限公司 ■
 ー北京分公司
 ー上海分公司
 ー深圳分公司
 琳得科(天津)実業有限公司
 普林特科(天津)標簽有限公司 ■
 リンテック・アドバンス・テクノロジーズ(上海)社
 ー蘇州分公司
 ー天津分公司
 ー深圳分公司
 ー成都分公司
 マディコ社
 ー蘇州事務所
 リンテック株式会社
 ー上海事務所
 リンテック・スペシャリティィー・フィルムズ(台湾)社
 リンテック・ハイテック台湾社
 リンテック・アドバンス・テクノロジーズ(台湾)社 ■
 ー新竹事務所
 リンテック・コリア社 ■
 リンテック・スペシャリティィー・フィルムズ(韓国)社
 リンテック・アドバンス・テクノロジーズ(韓国)社

リンテック・インドネシア社 ■
 リンテック・シンガポール社 ■
 ーハノイ事務所
 リンテック・ジャカルタ社
 リンテック・アドバンス・テクノロジーズ
 (フィリピン)社
 リンテック・フィリピン(ベザ)社
 リンテック・タイランド社
 リンテック・バンコク社
 リンテック・ベトナム社
 リンテック・ハノイ・ベトナム社
 リンテック・インドネシア社
 リンテック・インダストリーズ(マレーシア)社 ■
 リンテック・インダストリーズ(サラワク)社 ■
 リンテック・アドバンス・テクノロジーズ
 (マレーシア)社
 ークアラランプール事務所
 ーペナン事務所

25社 約1,500人

アメリカ

リンテックUSA ホールディング社
 マディコ社 ■
 ーマディコ・ウインドーフィルムズ部門
 ーマディコウエスト事務所
 ーマディコサウスウエスト事務所
 ーマディコミッドアメリカ事務所
 ーマディコサウステキサス事務所
 ーマディコサウスイースト事務所
 ーマディコフロリダ事務所
 ーマディコノースイースト事務所
 リンテック・オブ・アメリカ社
 ーシカゴ事務所
 ーグラス事務所
 ーナノサイエンス&テクノロジーセンター

3社 約300人

■ ISO14001*3の認証を取得した拠点 (注)上記人数は非連結を含んでいます。

対象範囲とその表記

本文中の報告対象範囲を以下のように整理し、表記しています。

また、報告対象外の拠点については本文中の末尾に記載することで、報告対象を明確にしています。

企業統治 社会性報告

「リンテック」：リンテック(株)

「リンテックグループ」：リンテック(株)および国内・海外グループ会社

環境報告

「リンテック」：リンテック(株)の本社、吾妻工場、熊谷工場、千葉工場、龍野工場、新宮事業所、小松島工場、三島工場、土居加工工場、新居浜加工所、伊奈テクノロジーセンター、研究所および東京リンテック加工(株)

「リンテックグループおよび海外グループ会社12社」：上記および海外グループ会社12社

注)海外グループ会社12社

琳得科(蘇州)科技有限公司、琳得科(天津)実業有限公司、普林特科(天津)標簽有限公司、リンテック・スペシャリティィー・フィルムズ(台湾)社、リンテック・アドバンス・テクノロジーズ(台湾)社、リンテック・コリア社、リンテック・スペシャリティィー・フィルムズ(韓国)社、リンテック・インドネシア社、リンテック・インダストリーズ(マレーシア)社、リンテック・インダストリーズ(サラワク)社、リンテック・シンガポール社、マディコ社

「リンテックグループ」：リンテック(株)および国内・海外グループ会社

*1 新宮事業所と新宮事業所龍野事務所は、一つのサイトとしてISO14001の認証を取得しています。

*2 三島工場と土居加工工場は、一つのサイトとしてISO14001の認証を取得しています。

*3 ISO14001：環境マネジメントシステムの国際標準規格



トップメッセージ

リンテック株式会社
代表取締役社長 社長執行役員

西尾 弘之

誠実に、そして革新の気概を持って
「守り」と「攻め」のCSR活動を続けていきます。

2014年4月1日をもちまして代表取締役社長に就任しました。私はこれまで役員並びに経営企画室長兼CSR推進室長として、3度にわたる中期経営計画の策定および進捗管理に携わってきました。リンテックグループの事業領域は大変幅広く、また中間素材メーカーとしてその最終製品は生活のあらゆる場面で使用されています。全従業員は社は「至誠と創造」を根幹としたCSR活動を推進しており、私はこのCSRを経営の基盤として貫くべきものだという自覚を新たにしています。

法令遵守や公正な取引、人権の尊重、働きやすい環境づくりといった事業活動の基本である「守り」のCSRは、全ての仕事に真心を込めて取り組む「至誠」の精神で徹底していく必要があります。さらに、常に工夫と改善に取り組む「創造」の精神で、豊かな社会の実現や社会的課題解決に寄与する製品を生み出す、積極的で創造的な「攻め」のCSR活動に、今後一層注力をしていきたいと考えています。

「LIP-Ⅲ」から「LIP-2016」へ。
全社的なCSRの浸透とさらなる進展を図ります。

2013年度をもって終了した中期経営計画「LINTEC INNOVATION PLAN Ⅲ (LIP-Ⅲ)」では、重点テーマの一つに「CSRを根幹に置いた企業活動の推進」を掲げ、さまざまな活動を展開してきました。まず、大きく進捗したのは、BCMS (事業継続マネジメントシステム)への取り組みです。危機発生

時に人命確保を最優先としながら、同時に盤石の製品供給体制を維持し、お客様にご迷惑をお掛けしないように事業を継続することは、中間素材メーカーである当社の大きな社会的責任です。この体制をより強固なものとするため、グローバルな規格であるISO22301*に基づいた全社的なBCMSの構築を目指しています。

次に、環境面での課題対応として、「環境負荷の低減」「資源の有効利用」を基本に、2013年度から具体的な数値目標を開示し、研究・開発・生産の各分野において活動を進めており、その成果は着実に表れています。

こうしたCSR活動の推進には、活動の主体である従業員の理解が必要不可欠です。私はCSR推進室長として、国内外のリンテックグループに対するCSR勉強会や、事業を通じていかに社会的課題に応えるかをテーマとしたCSR懇談会などを推進してきました。その結果、CSRの重要性や取り組みについて、全社的な理解が進んできていると実感しています。

こうしたCSRの進展を踏まえ、2014年度より新中期経営計画「LIP-2016」をスタートさせました。「LIP-2016」では、「グローバル展開のさらなる推進」「次世代を担う革新的新製品の創出」「強靱な企業体質への変革」「戦略的M&Aの推進」「人財の育成」の五つを重点テーマとして掲げています。中でも、「グローバル展開」と「革新的な新製品の創出」は、目下の最重要課題であると認識しています。

経営目標である「海外売上高比率40%以上」実現のためには、海外を含めた全ての従業員と、価値観と行動規範を共有することが必要です。その一助として「私たちが歩むべき道」である「LINTEC WAY」を新たに策定し、行動規範ガイドラインを6言語に翻訳して各国に配付しました。今後も勉強

全従業員力を結集し、 「至誠と創造」の心で社会に貢献できる ものづくりを進めていきます。

会などを通じて、拡大する海外拠点も含めたグローバルなガバナンス体制を強化していきます。

蓄積された技術力を武器に社会のニーズに対応する革新的新製品の創造を目指します。

「次世代を担う革新的新製品の創出」は、100年後も当社が存続し、本業を通じて社会的使命を果たしていくうえで、きわめて重要なテーマです。昨今では、あらゆる産業において事業範囲の拡張や重なり合いが起こり、業界の境界は曖昧になってきています。こうした時代の変化に合わせ、従来の常識に捕らわれず、時に部門を超えた創造を行うなど、お客様にとっての価値を第一に考えたものづくりを行っていきたくと考えています。

また、私たちの強みである「蓄積された技術力」を社会に役立つ新製品の創出に生かすためにも、もっと積極的に外部の声に耳を傾け、社会的課題の把握に努めていかなければなりません。具体的には、従業員の意識啓発のためのCSR懇談会の継続実施や外部講師による意識啓発のワークショップの開催、当社にとって重要なCSR活動テーマの特定などを進め、既存製品に捕らわれない革新的な新製品の創出を目指していきます。

研究開発分野においては、カーボンナノチューブのシート化技術に着手しており、2016年度中の実用化に向け、米国に新たな研究開発拠点を設け、量産化技術の確立に取り組んでいます。さらに研究開発力そのものを強化するべく、グローバルな研究施設の建設や、社外コンサルタントを含めた価値創造プロジェクトも推進していきます。

こうした価値創造の鍵を握る優れた人材を創出するため、若い従業員にも積極的に意見を述べてもらい、その声を各職場できちんと受け止め、次世代のリンテックを担う人材が育つ環境を整えていきたいと思えます。

社は「至誠と創造」を原点に、社会の期待に応える新しい事業づくりに努めます。

大内会長(前社長)は、機会あるごとにCSRの大切さを説いていました。私も全く同じ気持ちです。これまでのCSR活動の推進を通じて、社内のコミュニケーションやグループ間の交流は活発になり始め、事業の円滑化にもつながっています。今後とも、グループ全体でCSRへの意識を高めていくとともに、お客様を思う心、人を思う心を全従業員が大切にし、常に社会とともに歩む持続的成長企業であり続けたいと考えています。

社は「至誠と創造」は、誠を持つものづくりに臨み、新たな価値を創造する、というCSRの基本をうたったものです。この基本をしっかりと踏まえ、ステークホルダーの皆様の期待に応える、未来の製品・事業づくりに挑戦していきます。本レポートは、社会の皆様そして全従業員にもリンテックグループのCSR活動をより良く理解いただくために、2013年度の成果をできるだけ分かりやすく体系的にまとめました。皆様の変わらぬご支援、ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

* ISO22301：地震や火災、ITシステム障害や金融危機、取引先の倒産、あるいはパンデミックなど、災害や事故、事件などに備えて、さまざまな企業や組織が対策を立案し、効率的かつ効果的に対応するためのBCMSの国際標準規格。

新中期経営計画「LIP-2016」でCSRを進める

リンテックグループのCSRの根幹は、社是「至誠と創造」にあります。
 全ての従業員が社是の下、CSR活動に取り組んでいます。

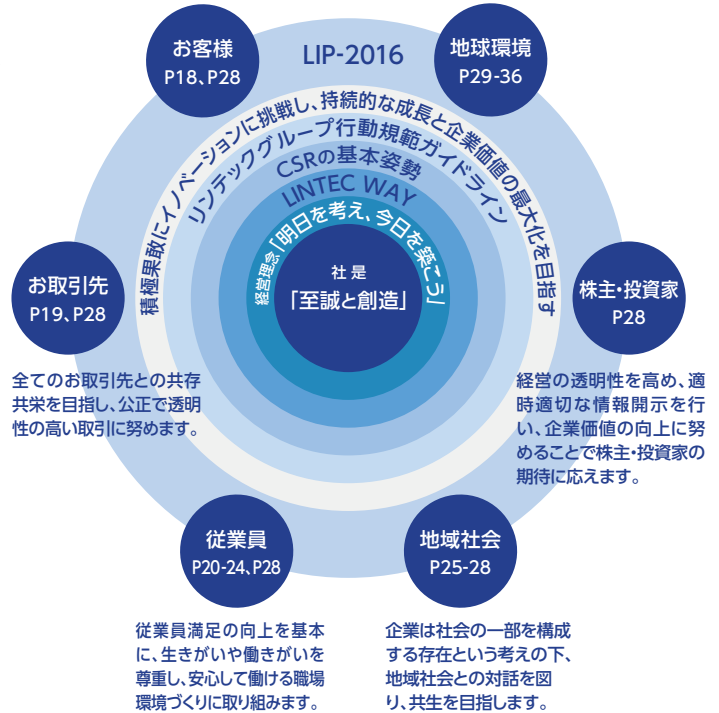
お客様からの期待に応え、信頼いただくために、製品の安定供給および品質管理とサービスの向上を図ります。

企業活動と地球環境の調和を目指し、環境負荷の低減に努めます。

「LIP-2016」による本業を通じたCSRの実践

リンテックグループの事業は、多くのステークホルダーに支えられて成り立っています。ステークホルダーの期待に応えるため、リンテックグループでは社是「至誠と創造」をCSRの根幹に置き、「CSRの基本姿勢」「リンテックグループ行動規範ガイドライン」にのっとり、積極的に活動を推進しています。

また、新中期経営計画「LINTEC INNOVATION PLAN 2016 (LIP-2016)」の基本方針「攻めの経営と間断なきイノベーションで成長軌道を取り戻す」を実現するうえでも、CSRの推進は欠くことができません。CSR活動の推進は経営に直結するものと考え、全従業員が意識を高めながら計画的に取り組んでいます。



全てのお取引先との共存共栄を目指し、公正で透明性の高い取引に努めます。

経営の透明性を高め、適時適切な情報開示を行い、企業価値の向上に努めることで株主・投資家の期待に応えます。

従業員満足の向上を基本に、生きがいや働きがいを尊重し、安心して働ける職場環境づくりに取り組みます。

企業は社会の一部を構成する存在という考えの下、地域社会との対話を図り、共生を目指します。

「LINTEC INNOVATION PLAN 2016 (LIP-2016)」 (2014年4月1日～2017年3月31日)

2014年4月より、新たな3か年中期経営計画「LIP-2016」がスタートしました。

重点テーマ「グローバル展開のさらなる推進」では、新興国のニーズに応えるためにも、グローバルレベルでのグループ経営の強化は大変重要なテーマです。リンテックグループではこれまでも「国連グローバル・コンパクト」に参加し、ISO26000を参考にしながらグローバルでの企業倫理を醸成してきましたが、さらに2013年度は「リンテックグループ行動規範ガイドライン」を見直し、CSRの徹底を図るため、2014年4月にリンテックグループ全従業員に配付しました。

また、重点テーマである「次世代を担う革新的新製品の創出」の一環として、本業を通じた攻めのCSRを実践するため、CSR懇談会を開催しました。今後は、具体的な活動につなげるワークショップを計画しています。

基本方針

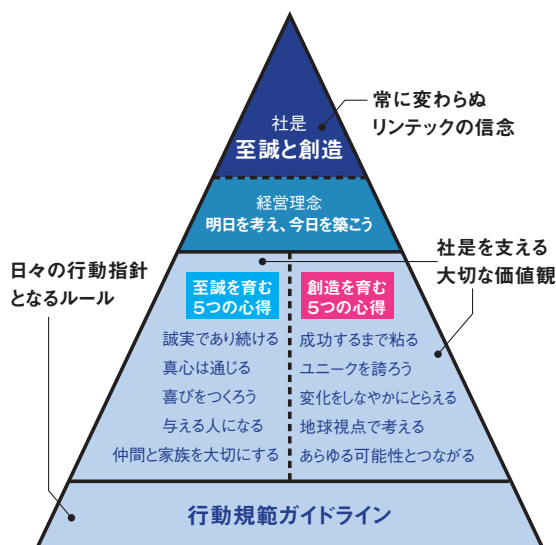
攻めの経営と間断なきイノベーションで成長軌道を取り戻す

- 1 **グローバル展開のさらなる推進**
 - アジア地域を中心とした海外事業の拡大
 - 未進出地域での事業基盤づくり
- 2 **次世代を担う革新的新製品の創出**
 - 新製品の創出による新市場・新需要の開拓
 - 新製品の創出のための研究開発基盤の強化
- 3 **強靱な企業体質への変革**
 - コスト競争力の強化
 - 選択と集中
- 4 **戦略的M&Aの推進**
 - 成長戦略としてのターゲットの明確化
 - M&A推進体制の強化
- 5 **人財の育成**
 - グローバル人材の確保と育成
 - 継続的な階層別研修の実施

■ 私たちが歩むべき道「LINTEC WAY」

リンテックグループでは、全従業員が心を一にし、同じ方向性を目指しながら歩めるよう、2014年度は新たに「LINTEC WAY」を策定しました。

社是「至誠と創造」を体現するリンテックグループの従業員はどういった志を持ち、行動すべきなのか。従業員へのヒアリングとディスカッションを重ね、また外部からの意見も取り入れ、リンテックグループ従業員のあるべき姿を明文化しました。



○至誠を育む5つの心得

1 誠実であり続ける

私たちリンテックは、いかなるときも「誠実」であり続けます。誠実とはそう偽りなく、正直にふるまうことです。私たちはそうあるために、人のかかわりにおいて感謝と敬意を忘れません。また、メーカーとして品質でも誠実を語り続けます。

2 真心は通じる

私たちリンテックは「真剣に尽くす心」を持ち続けます。グローバルの時代においても、私たちが大切にしている真心を込めたコミュニケーションで、心が通じ合い、距離が縮まり、前進することができると思えるからです。

3 喜びをつくろう

私たちリンテックは「ありがとう」を大切にします。なぜなら仕事とは、ステークホルダーに喜んでいただくことで対価を得るものと考えます。そのためにも私たちはお客様の声、社会の声を自ら進んで聴き、困りごとの解決に取り組めます。

4 与える人になる

私たちリンテックは「利他の心」を忘れません。一人ひとりが真摯に仕事に向き合い、取り巻くすべての人たちに「喜びをもたらすこと」に全力を尽くします。なぜならその営みが、社会全体の持続的成長につながると信じているからです。

※利他とは「他人の喜び」をまず第一とする考え方。

5 仲間と家族を大切にする

私たちリンテックは「人の和」を大切にします。強い信頼関係の中で働くことは、仕事へのやりがいを生み、安定と向上をもたらすからです。従業員はもちろん、家族、取引先への思いやりを欠かさず、安心感と誇りを持って生き生きと働ける場を築き続けます。

○創造を育む5つの心得

1 成功するまで粘る

私たちリンテックは「進化」に挑み続けます。あと少しの粘りが成果を左右することを知り、細部までとことんこだわり抜きます。そしてそのプロセスを楽しみ、飽くなき探求心と情熱で、世の中の夢をつなぎます。

2 ユニークを誇ろう

私たちリンテックは「独創的な視点」を欠かしません。他社がまねできない方法で新しい価値や市場を生み出すことこそ、私たちの役目であり、誇るべき強みだと信じるからです。未開の分野にも積極果敢に取り組み、世の中に新鮮な驚きと感動を届けます。

3 変化をしなやかにとらえる

私たちリンテックは「時代の変化」と共に歩みます。変化しないことを最大のリスクと考え、しなやかに時代の価値観や環境の変化をとらえます。そして、勇気を持って自らを変化させることで活躍できる市場を開拓し、次世代のニーズにこたえていきます。

4 地球視点で考える

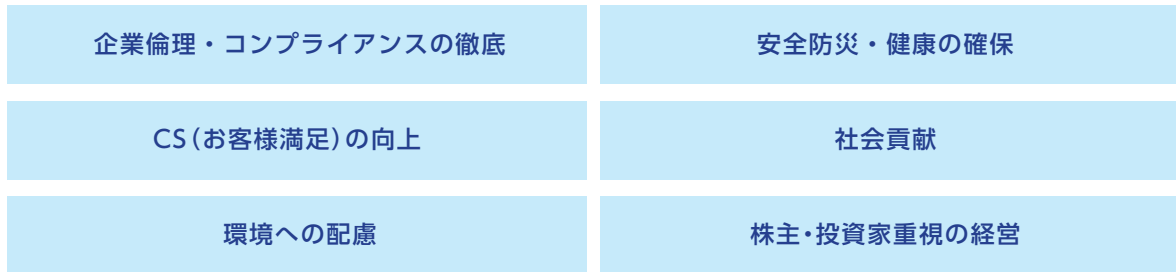
私たちリンテックは「グローバル」に行動します。世界規模での技術貢献に挑むとともに、地域に密着した活動を通じて社会の活性化に努めます。また、環境配慮を永続的に推進し、地球市民としての意識を忘れず行動します。

5 あらゆる可能性とつながる

私たちリンテックは「つながり」を価値と考えます。優れた知恵や技術を吸収し、切磋琢磨を惜しみません。社内だけでなく、会社や国境を越えたコミュニケーションを加速し、新たな価値づくりのためにあらゆる可能性を模索します。

CSRの基本姿勢

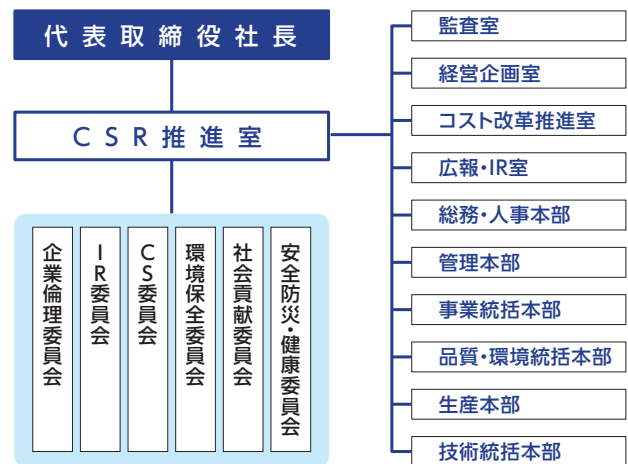
リンテックグループでは、社は「至誠と創造」の下、六つの基本姿勢に沿って取り組みを進めています。



CSR推進体制

リンテックでは、CSRの六つの基本姿勢に沿ってCSR活動を推進しています。

CSR推進室は、社長直轄の組織とし、全社での高い倫理観の育成とCSRの浸透、およびCSR六委員会の活動支援を行っています。六委員会は組織横断的のメンバーで構成され、各委員会に推進担当役員を配することで、経営の立場から責任を持って活動をリードしています。



2014年4月1日現在

推進に向けた取り組み

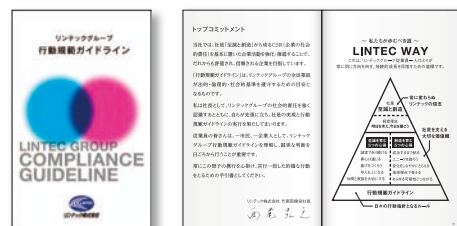
行動規範ガイドラインの改定

リンテックグループ従業員は、小冊子に収められた行動規範ガイドラインを携帯し、さまざまなシーンでの活用を心掛けています。2013年度には、グローバルな行動規範へと発展させるために、「国連グローバル・コンパクト」やISO26000、経済協力開発機構(OECD)多国籍企業ガイドラインの項目をより一層取り入れて見直しを行い、2014年4月に行動規範ガイドラインを改定しました。



研究所での勉強会

また、刷新した行動規範ガイドラインには「LINTEC WAY」も併せて掲載したうえで他言語に展開し、世界中の従業員へ配付しました。さらに国内拠点から順次勉強会を実施しており、今後は海外拠点へも展開する予定です。



リンテックグループ行動規範

行動規範

企業活動の根幹は「コンプライアンス（法令遵守）」であり、リンテックグループの国内外における企業活動において「関連法規」ならびに「社会ルール」を遵守する。

私たちリンテックグループの役員・従業員等は、

- 常に、社会に貢献できる製品とサービスを提供します。
- すべての取引先との間で、自由な競争原理に基づく、公正・透明な取引を行います。
- すべての企業活動において、国内・外の法規を遵守するとともに、高い倫理感を持って自らを律します。
- 株主・投資家・取引先・地域社会・従業員等、当社の企業活動にかかわるすべての人々との関係を重んじます。
- 地球環境問題を重要な経営課題と位置づけ、環境への負荷の抑制・削減へ積極的に取り組みます。
- 良き企業市民として、積極的に社会貢献活動を行います。
- 政治・行政とは、公正で透明な関係を維持します。
- 反社会的勢力は排除します。
- 企業活動に伴い接待・贈答が必要な場合には、社会的常識の範囲内で節度を持って行います。
- 企業情報を適正に管理し、適時・適正に開示します。
- 知的財産権の管理に万全を期すとともに、他社の知的財産権を尊重し、これを侵害しません。
- 役員・従業員一人ひとりの人権と人格を尊重し、公正に処遇し、職場環境の維持に努めます。

2003年1月制定 2011年4月改定

「国連グローバル・コンパクト」の10原則

1999年の世界経済フォーラムにて、企業に対して提唱されたイニシアティブ*。この原則を組み込んだ事業活動を行うことで、企業市民としてグローバルでの責任を果たし、社会の持続的発展に貢献できるとしています。

● 人権

- 原則1: 人権擁護の支持と尊重
- 原則2: 人権侵害への非加担

● 労働基準

- 原則3: 組合結成と団体交渉権の実効化
- 原則4: 強制労働の排除
- 原則5: 児童労働の実効的な排除
- 原則6: 雇用と職業の差別撤廃

● 環境

- 原則7: 環境問題の予防的アプローチ
- 原則8: 環境に対する責任のイニシアティブ
- 原則9: 環境にやさしい技術の開発と普及

● 腐敗防止

- 原則10: 強要・賄賂等の腐敗防止の取組み

ISO26000

ISO26000はあらゆる組織における社会的責任の基準を定め、その手引きを提供する国際標準規格です。世界の社会的課題を踏まえ、組織が担う社会的責任を七つの中核主題として設定しています。



組織統治



公正な事業慣行



人権



消費者課題



労働慣行



コミュニティへの参画
及びコミュニティの開発



環境

リンテックのCSRに関する社内ステークホルダー・ダイアログ（対話）

CSRを推進するための社内ダイアログの継続実施

リンテックグループではCSRへの理解を深めるため、国内外での拠点においてCSR勉強会を実施しています。さらに2012年度からは「攻めのCSR」について、部署横断的に従業員同士が話し合う社内ダイアログを開催し、2013年度も引き続き実施しました。2014年3月には、研究所で働く研究員を中心に女性従業員10人が参加するダイアログを行いました。



研究所でのダイアログ

参加者からの声

- ふだん、部署を越えたメンバーで「これからのリンテック」について話す機会はあまりなかったのだと気づかされた。今回は良い機会になった。
- 法令を遵守しているだけでなく、社会の動向をいち早く捉え準備しておくことで、リンテックグループとしての強みが生み出せると思う。
- グローバル化を進める点からも海外の従業員と攻めのCSRについて話し合う機会づくりを進めることが重要。

* イニシアティブ: 主導的提案。

特集 1



持続的成長を遂げる企業であるために 全社を包括する事業継続マネジメントシステム (全社BCMS)の構築を目指す

リンテックでは、各事業部門・各拠点において
これまでも予期せぬ自然災害や重大事故の発生時に対応する手順を定めた
BCP(事業継続計画)*1を策定してきました。
2013年度には、それを基礎に全社BCMS(事業継続マネジメントシステム)*2の構築を目指し、
リンテックが持続的成長を遂げる企業であるための体制強化を図りました。
本特集では現在までの歩みをご紹介します。

- A：非常用食料などを備蓄する本社倉庫
- B, J, K：本社防災訓練
- C, G：審査の様子
- D, E：全社BCMS担当者会議
- F：龍野工場で実施した工棟耐震補強
- H：ルール策定に向けた打ち合わせ
- I：全社BCMS勉強会
- L：吾妻工場に掲げられている
社は「至誠と創造」



事業継続は企業が果たすべき 大きな社会的責任

サプライチェーン*3の複雑化や事業領域の広域化が進む中、企業が社会に対して与える影響は拡大しています。そのような中でリンテックグループは中間素材メーカーであり、また事業領域は多岐にわたることから、万一、事業活動が停滞すると社会に大きな影響を与えてしまうことが予想されます。当社が企業としての社会的責任を果たすためにも、BCP、さらにはそれを効果的に運用するBCMSの構築は、欠かすことのできない重要なテーマでした。

本当の事業継続には 全社の力を合わせる必要だった

「2009年から関連部署の協力を得ながら、事業部門を中心にBCPの策定を進めていました」と、今回、全社BCMS推進チームのリーダーとしてチームを率いたCSR推進室の真木亨(以下、真木)は振り返る。

「当時はまだ日本にも参考となる情報が少なく、計画づくりにも時間が掛かっていました。しかし、その策定途中で東日本大震災を経験。会社の内外でBCPの重要性についての認識を一気に高めることになりました」(真木)

やがて6事業部門についてBCPの骨格が完成します。しかし、その計画をさらに実践的なものに仕上げるために壁があったとCSR推進室の森尾定和(以下、森尾)は語ります。

「各事業部門、生産拠点の計画としてはある程度まとめることができましたが、事業継続のためには、どうしても部門の壁を越えることが必要になります。ところが当時は、その壁を越えたルールがありませんでした」(森尾)

その後、真木と森尾はBCPをより完成度の高いものとするために全社を巻き込み、しかもBCPで終わらせるのではなく、その計画を不断に見直し高度化していくBCMSとして確立することが必要だと考えるようになりました。

営業・販売部門を加えた 全社BCMSの構築に踏み出す

課題の一つは、営業・販売部門での取り組みの難しさでした。

「生産拠点ではBCPに対する理解や心構えが、既にある程度はありました。しかし、営業拠点では初めてのことでした」と後に全社BCMSの構築に深く関わる、品質・環境統括本部の山戸義幸(以下、山戸)は語ります。

「CSR推進室から“全社で”という話を聞いたとき、正直これ

は大変なことだと感じました」(山戸)

しかし、当代表取締役社長(現会長)だった大内昭彦は、真木と山戸の背中を押しました。「BCMSは企業が社会的責任を果たすために必須であり、その目的から除外される拠点は一つもない。全社で取り組もう」と。

2013年4月、いよいよ全社BCMSの構築に向けて、社内各部署から選抜された7人による全社BCMS推進チームが発足されました。

「専門の外部コンサルタントなどに頼らず、自力でやりきることで社内での専門家を育てるべきだと思いました。将来きっと当社の財産になるはずですよ」(真木)

「原因事象」と「結果事象」の切り分けが 行き詰まりを打開する道に

当時CSR推進室長(現社長)だった西尾弘之からは「2014年3月までに、全社のBCMSを構築する」との指示が明確に出されました。また、2012年に、BCMSに関する国際標準規格ISO22301*4が発行され、その活用も決めました。規格に対応することで、BCMSをグローバルなレベルまで上げ、その客観性を担保するためです。

推進チーム内では、環境安全部 環境安全グループの油谷広記(以下、油谷)と西川健彦(以下、西川)が、新たなルールの素案づくりと、作業スケジュールの作成および管理に当たりました。しかし、早速困難に遭遇することになるのです。

「BCMSは、実際に工場や拠点でやってもらわなければならないことが多数あります。日常業務に支障が出ないように、いかにそれらの作業を効率化するか。例えば、一つの演習を行うことで同時にさまざまなチェックができるような方法や、報告書の書き方などを工夫したのですが、現場からは“もっと分かりやすく指示してほしい”という要望が寄せられました」(油谷)

また、当初の予想どおり営業部門での取り組みにも難しさがありました。「私自身が営業出身なので、彼らの戸惑いはよく分かりました」と、総務・法務部 総務・管財グループの末田和(以下、末田)は語る。

*1 BCP: Business Continuity Plan(事業継続計画)の略称。企業が事故や災害などの緊急事態に遭遇した場合、損害を最小限にとどめつつ、事業の継続あるいは早期復旧を可能とするために事前に策定された行動計画。

*2 BCMS: Business Continuity Management System(事業継続マネジメントシステム)の略称。企業の重要な製品またはサービスに重大な影響を与えるインシデント(→P19に記載)発生の際に「事業を継続」するため、組織の現状を理解して事業継続計画を策定し、演習により計画の実効性評価を行い、システムを運用するマネジメント手法。

*3 サプライチェーン: 原材料の調達から生産・販売・物流を経て最終需要者に至る一連の流れ。

*4 ISO22301: →P5に記載

「担当者にもよると思いますが、BCPやBCMSのことを考える機会はほとんどありませんでした。そういった方々に、いかにBCMSの必要性を理解してもらい協力いただくか。とにかく分かりやすい資料をつくることを心掛けました」(末田)

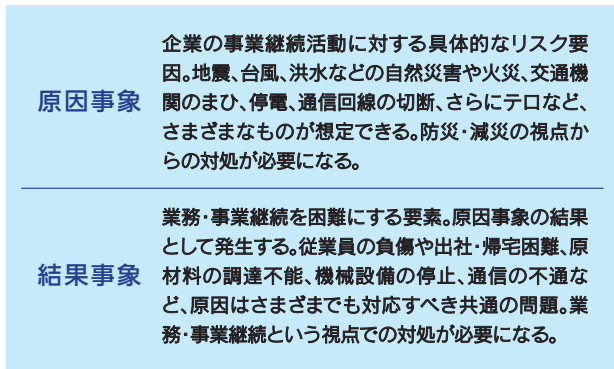
また、BCMSのルールづくりそのものについても、難しい問題に直面しました。

「とにかく決めなければならないことが膨大で、うまく整理がつかないのです。この災害のときはどうするか、この事象が起きたらどうするか、いろいろなケースが想定でき、対応を検討していくと、どんどん膨れ上がってしまう」(西川)

この問題を解決するうえで、大きなヒントになったのが「原因事象」と「結果事象」を切り分ける考え方でした。

「原因はいくらでも出てきますが、それによってもたらされる結果は、例えば、“出社できる人員が限られる”とか“物を輸送できない”など同じになります。それまで原因事象で考えていたため、ルールが必要以上に複雑になっていたのです。これらを切り分ければ良いのではないかと気がつきました。

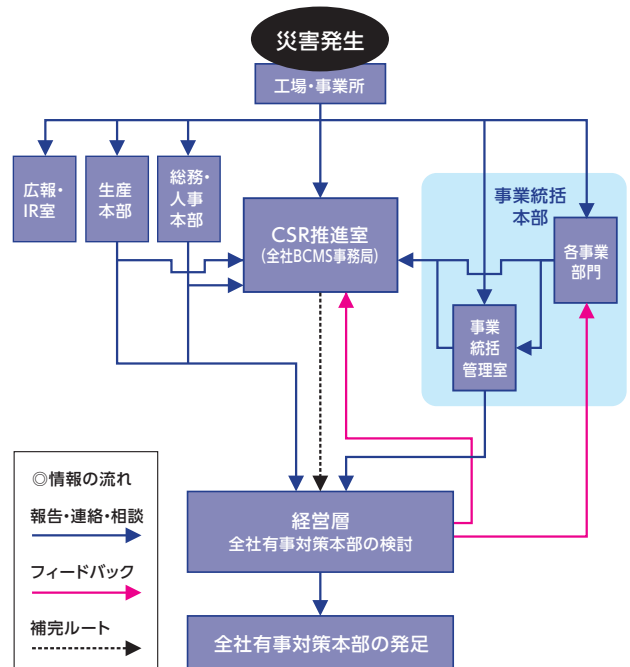
実際に海外では、原因事象とそれに対する防災・減災、結果事象とそれに対する業務・事業継続、というようにBCPを二つに分けているということも知りました」(山戸)



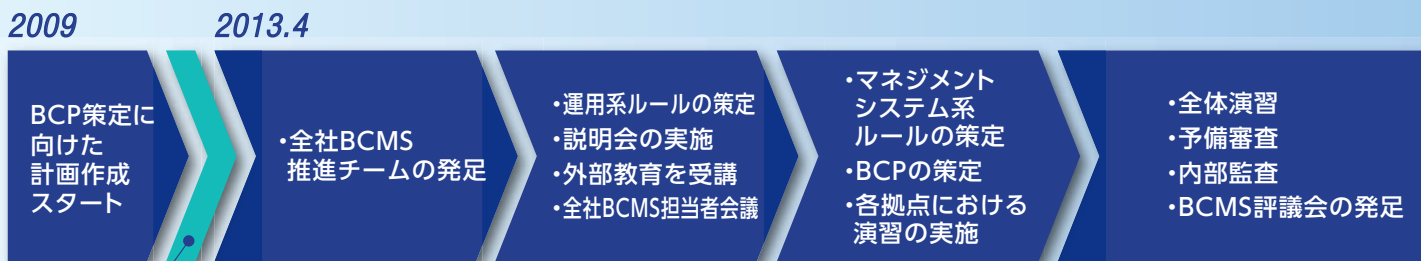
演習を通じてPDCAサイクルを回し より実効性の高いBCMSに

しかし、BCMSの構築は、単に机上のルールづくりにとどまるものではありません。実際の演習をさまざまなレベルで実施し、それをフィードバックする形で、対策の実効性を検証し、高めていく必要があります。「演習には、全社的なものと拠点ごとのものと2種類があります」とCSR推進室の新井稔明(以下、新井)は言う。拠点ごとの演習では、例えば、昼間だけでなく夜にも実施することで「懐中電灯が各自に必要」ということを発見するなど、拠点から多くのことを教えてもらいながら、より実効性のあるものに変化していきました。

事業継続に関わる自然災害等の有事報告フロー



全社BCMS構築までの流れ



2012
国際標準規格
ISO22301の発行



また、事業を継続するうえで基本となる「二重化」という施策についても「例えば、生産であれば具体的にどこで代替するのか、外注する場合は、その外注先で同レベルの代替品が本当につくれるのか、といったテストまで行わなければなりません」(山戸)

この中で「BCMS評議会」の設定が重要だったと山戸は語る。「演習などを重ねていけば、当然いろいろな意見や改善案が上がってきます。それらを全社的にまとめる場として、BCMS評議会が設けられました」(山戸)

さまざまな演習や二重化の検証、組織づくりなど、国内の全従業員が一丸となって活動し、ついに全社BCMS構築は一つのゴールを迎えました。そして、2014年3月にISO22301の認証を取得。試行錯誤を繰り返して取り組んだ当社のBCMSには多くのノウハウが蓄積され、他社の参考としてセミナーの講師役を依頼されるまでになりました。しかし、活動が終わるということはありません。

「一部の人間が策定し、理解しているというだけでは本当のBCMSにはなりません。むしろこれからです」(新井)

「防災や事業継続というと、特別な事態への対応のように感じますが、ふだんから小さな異常事態は起きています。それに細かく対処できれば、大きな事象にも対応が可能になり、日常の業務改善にもつながる。BCMSというのは非常時のマニュアルづくりであると同時に、日常の業務改善にもつながるのだということを学びました」(西川)

「今回のBCMS構築で発揮したこのチームと社内の結束を、さらに全社に広げたい」と真木も振り返ります。

全社BCMSの構築を1年という期間で実現し、当初の目標を達成したリンテック。その全社BCMSを支えているのはリンテックの全従業員なのです。今後は、さらに国内外グループ会社を含めたリスクマネジメント体制の構築を目指しています。

BCMSに対する各事業部門・拠点の声

事業部門

産業工材事業部門では、東日本大震災直後にBCP対策チームを立ち上げ、シナリオ型・リソース型・拡張型のBCPを準備し、同時に非常時災害対策にも着手してきました。今回の全社BCMS活動によって、事業部門・拠点別の部分最適から、組織横断的な全体最適へと大きく展開することができ、重要ポイントの情報共有とPDCAサイクルを活用した継続的活動に結びついています。

産業工材事業部門*
事業支援部 部長
三木 力雄



営業拠点

広島支店では2013年に、BCMS基礎編勉強会や災害系・事業継続系の演習を行いました。演習を通じて、災害時に当たり前の行動を取ることがとても難しいことを実感し、手順書作成時には予見できなかった行動を加えて修正しました。今後も消火訓練やAED訓練など、複数の演習を実施していく予定です。全員が与えられた役割を十分に果たし、事業継続のためにBCMS活動に取り組んでいきます。

広島支店 業務課主任
野村 浩一



生産拠点

BCMSの重要性について工場内で共通認識を持つことから、熊谷工場における構築と運用が始まりました。「人命最優先」「有事の事業継続」を根幹に置き、あらゆるリスクに対応する手順を繰り返し考え、実効性のある行動計画に仕上げていきました。まだ、BCMSはスタートしたばかりです。今後、計画の見直しと改善を重ね、より盤石なシステムにしていきます。

熊谷工場
事務部業務課 課長代理
大島 俊和



* 2014年5月30日よりプリンテック(株) 社長に就任しました。

2014

2014.3

・第一段階審査
・マネジメント
レビュー

・全社BCMS勉強会の実施
・第二段階審査
・内部監査

国際標準規格
ISO22301の
認証を取得

・総合防災演習



CSR活動テーマと目標・実績

リンテックと社会がともに持続的に発展するためには、法令遵守はもとより、社会からの要請に応えるさまざまな取り組みが必要です。

CSRの基本姿勢に合わせ組織横断的なメンバーで構成された委員会が、CSR活動を推進しています。

2013年度 CSR活動テーマと目標・実績

◎大幅達成 ○達成 △未達成

	基本理念	活動テーマ	2013年度の目標	達成状況
企業倫理	「企業倫理・法令遵守」を重要な経営課題と位置づけ、従業員一人ひとりへの意識の浸透と日々の実践を推進する	<ul style="list-style-type: none"> ●従業員一人ひとりが自覚を持ったよき市民として行動する ●コンプライアンスの徹底を図り、社会から信頼される会社を目指す 	<ul style="list-style-type: none"> ●双方向(参加型)による倫理観の浸透 ●各種管理規程の遵守および見直し(情報セキュリティー・個人情報・営業機密など) ●提案型活動の推進 	○
CS(お客様満足)	お客様からの信頼確保と責任を果たすことを基本に置いた、製品の安定供給および品質とサービスの向上を推進する	<ul style="list-style-type: none"> ●リンテック品質方針、行動指針に基づいた具体的活動の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ●CSスローガン「みんなが喜ぶ製品をつくろう」「Lintec Products make everybody happy!」をコンセプトとし、八つの行動指針に沿って立案・作成した具体的な活動案の達成 	○
安全防災・健康	従業員満足度の向上を基本に置いた、安心して働ける職場環境の整備を推進する	<ul style="list-style-type: none"> ●天災・人災への素早い対応 	<ul style="list-style-type: none"> ●天災被害の最小化 	○
		<ul style="list-style-type: none"> ●安全、健康を保障する管理体制の構築 	<ul style="list-style-type: none"> ●労働安全衛生マネジメントシステムの維持管理 ●心の健康回復/健康増進 	
		<ul style="list-style-type: none"> ●伝染病予防対策 	<ul style="list-style-type: none"> ●海外事業所単位の行動計画フォロー ●EM*1委員会との安全情報共有 	
		<ul style="list-style-type: none"> ●長時間労働対策・年次有給休暇取得促進 	<ul style="list-style-type: none"> ●長時間労働の対策推進 ●年次有給休暇取得の促進 	
社会貢献	地域・国際社会におけるよき企業市民として、社会的課題の解決に寄与し、それら社会の持続的発展に貢献する身の丈に合った活動を推進する	<ul style="list-style-type: none"> ●身の丈に合った活動 ●継続可能な活動 ●地域密着型の活動 	<ul style="list-style-type: none"> ●地域社会との交流 ●活動の充実と定着化 ●従業員の活動参加意識の向上と支援 	○
IR*2	株主・投資家重視の経営推進コーポレートブランドの向上	<ul style="list-style-type: none"> ●株式市場での評価を高め(適正な株価形成)、企業・株主価値の向上を図る 	<ul style="list-style-type: none"> ●投資家・証券アナリストの新規開拓・関係強化 ●株主との関係強化と個人投資家の新規開拓 ●情報発信とコミュニケーションの強化 	○
環境保全	素材メーカーとしての「環境負荷の低減」・「資源の有効利用」を基本に置いた、研究・開発および生産などの全社的活動を推進する	<ul style="list-style-type: none"> ●法令遵守の徹底 	<ul style="list-style-type: none"> ●法令遵守管理の徹底 	◎
		<ul style="list-style-type: none"> ●環境関連広報・教育の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ●エコニュースを24件以上配信 	○
		<ul style="list-style-type: none"> ●生物多様性の保全 	<ul style="list-style-type: none"> ●各サイトごとでの具体的活動の推進 	○
		<ul style="list-style-type: none"> ●環境配慮型製品の開発 	<ul style="list-style-type: none"> ●当社のLCA*3基準に準じた開発件数8件以上 	○
		<ul style="list-style-type: none"> ●CO₂排出量の削減 	<ul style="list-style-type: none"> ●目標数値209kt以下 	○
		<ul style="list-style-type: none"> ●エネルギー使用量の削減 	<ul style="list-style-type: none"> ●エネルギー原単位3%改善(2010年度比) 	◎
		<ul style="list-style-type: none"> ●産業廃棄物処理費用の低減 	<ul style="list-style-type: none"> ●目標金額177,674千円以下 	○
		<ul style="list-style-type: none"> ●化学物質の管理徹底 	<ul style="list-style-type: none"> ●サプライヤー自主監査50件以上 	○
<ul style="list-style-type: none"> ●大気排出VOC量の削減 	<ul style="list-style-type: none"> ●大気排出VOC量の目標数値980t以下 	○		

*1 EM: Emergency Managementの略称。海外に駐在および出張する従業員の安全を図るための組織。

*2 IR: Investor Relations(投資家向け広報)の略称。企業が株主や投資家に向けて、経営や財務、業績などの企業情報を提供する活動。

*3 LCA: Life Cycle Assessmentの略称。製品のライフサイクル全体を通じて使われるエネルギーや水、原材料の量や排出されるCO₂、有害化学物質などを算出し、環境への影響を総合的に評価する手法。

リンテックグループの全従業員が自ら考え行動を起こし、一体感を持って活動するCSRを目指しています。そのためには、PSR(個人の社会的責任)を果たすのはもちろんのこと、PSRを当社のCSRへ発展させることが重要です。当社のCSRを全従業員と共有するために、社是から成るべき

姿をより分かりやすくした「LINTEC WAY」を2014年4月に策定しました。社是を育む10の心持は、当社のCSRのみならずPSRにも通じるものです。当社グループが持続的成長を遂げるために、一体感を持ってCSR活動を推進していきます。

CSR推進室 室長 真木 亨

2013年度の主な活動実績	推進担当役員のコメント	2013年度 活動報告
<ul style="list-style-type: none"> ●「りんりかわら版」の継続と、小冊子の発行 ●e-ラーニングを活用した倫理教育の実施 ●階層別研修でのコンプライアンス教育の実施 ●国内全拠点への情報セキュリティ教育の実施(41回約1,700人) 	<p>企業倫理推進担当役員 小林 賢治 取締役 専務執行役員 技術統括本部長</p> <p>事業のグローバル化に伴い、求められる企業倫理も世界の基準に立たなければなりません。全従業員が社会変化を捉え、求められる企業倫理を自らの行動につなげることを目指します。</p>	<p>企業統治 至誠のために P16-17</p> <p>組織統治 / 公正な事業慣行 ※</p>
<ul style="list-style-type: none"> ●e-ラーニング「ポケットの顧客対応ツール」 「統計的手法 標準偏差と正規分布」、 「デザインレビュー」の実施 ●人材育成に関する社内アンケートの実施 	<p>CS推進担当役員 飯海 誠 取締役 常務執行役員 事業統括本部副本部長</p> <p>全従業員が心一つにして取り組めるよう、CSスローガンを掲げています。社内はもとよりお取引先とも協働し、さらなるお客様満足の上を目指します。</p>	<p>社会性報告 お客様のために / お取引先との協働 P18-19</p> <p>人権 / 消費者課題 / 公正な事業慣行 ※</p>
<ul style="list-style-type: none"> ●労働安全衛生マネジメントシステムの継続的運用 ●海外出張用ガイドラインの活用と教育の実施 ●海外安全情報などを毎週配信 ●メンタルヘルスケア研修と啓発活動の実施 ●年次有給休暇取得状況の実態調査・取得向上の推進 ●健康促進手当による啓発活動の実施 	<p>安全防災・健康推進担当役員 小山 貢二 取締役 専務執行役員 生産本部長 兼品質・環境統括本部管掌</p> <p>リンテックグループの全従業員が安心して、健やかに、そしてやりがいを持って働けるよう、より良い職場環境づくりに向けたさまざまな取り組みを進めていきます。</p>	<p>従業員とともに P20-24</p> <p>人権 / 労働慣行 ※</p>
<ul style="list-style-type: none"> ●東日本大震災復興支援ボランティアに参加(4回10人) ●地域清掃活動の実施 ●板橋地区暴力団追放連絡会・キャンペーンに参加 ●障がい者支援活動 ●東日本大震災の被災者への義援金寄附 ●5事業所で工場・施設見学の受け入れ(853人) ●献血に参加(611人) 	<p>社会貢献推進担当役員 市橋 孝二 取締役 専務執行役員 事業統括本部副本部長</p> <p>地域社会の一員として、期待に応える活動を継続的に実施していきます。また、リンテックグループが社会の課題に対して解決の一助となる方法も検討していきます。</p>	<p>地域社会とともに P25</p> <p>コミュニティへの参画 及びコミュニティの開発 ※</p>
<ul style="list-style-type: none"> ●国内の機関投資家・アナリストとのIRミーティングや取材対応の実施(年間150件以上) ●継続的な海外機関投資家訪問の実施(欧州1回、計17社とのIRミーティングの実施) ●国内で開催される海外投資家向けイベントへの参加(3回、計18社とのIRミーティングの実施) ●株主通信誌、IRサイトなどによる情報提供の充実 	<p>IR推進担当役員 浅井 仁 取締役 副社長執行役員 管理本部長*4 兼 総務・人事本部管掌</p> <p>株主・投資家の皆様との信頼関係をより一層強固にするため、正確な情報を素早く公平に提供するなどのIR活動を行っています。</p>	<p>コミュニケーション P28</p> <p>組織統治 / コミュニティへの参画 及びコミュニティの開発 ※</p>
<ul style="list-style-type: none"> ●各サイトの環境法令相互内部監査実施 ●27件配信で目標達成 ●地域の活動への参加など各サイトで活動実施 ●開発件数14件で目標達成 ●約203千tで目標達成 ●2010年度比7.8%改善で目標達成 ●176,903千円で目標達成 ●61件のサプライヤー自主監査実施で目標達成 ●約900tで目標達成 	<p>環境保全推進担当役員*5 山戸 義幸 常務執行役員 品質・環境統括本部長</p> <p>素材メーカーとして環境問題に真摯に向き合わなければなりません。今後も事業活動での環境負荷低減を継続的に行うとともに、LCAの観点で環境問題解決に貢献できる新製品の開発を行っています。</p>	<p>環境報告 P29-36</p> <p>環境 ※</p>

*4 2014年4月1日より、取締役 副社長執行役員 管理本部長 兼 経営企画室長 兼 総務・人事本部管掌に就任しました。

*5 2014年4月1日より、環境保全推進担当役員に木村 公一が就任しました。

※ ISO26000の七つの中核主題を示しています。この手引を参考に、リンテックのCSR活動を報告しています。

至誠のために

リンテックグループの社是「至誠と創造」が示すように、「法令遵守」と「企業倫理」は経営の最重要テーマです。CSRの基盤と位置づけ、経営体制の強化に努めます。

コーポレート・ガバナンス

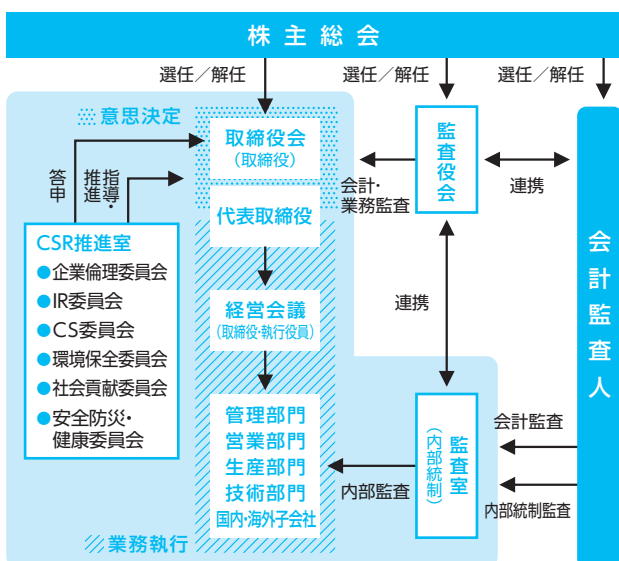
リンテックグループは、法令遵守を徹底し、経営の透明性と企業倫理の意識を高め、迅速な意思決定と効率的な業務執行を行っていくことが、コーポレート・ガバナンスの基本だと考えています。その充実・強化を通じて、リンテックグループの企業価値のさらなる向上を目指します。

コーポレート・ガバナンス体制

リンテックでは、取締役の任期を1年とすることで、その責任を明確にしているほか、2011年6月より執行役員制度を導入し、経営を意思決定する取締役と、業務を執行する執行役員とを分離しました。

監査役（社内2人、社外2人）は、取締役会と経営会議に常時出席して意見聴取を行い、内部監査部門や会計監査人と連携し取締役の業務全般を監査しています。また監査役会では、各監査の結果を共有し、取締役の意思決定と執行役員の業務執行の適正さと効率性のチェックを強化しています。

コーポレート・ガバナンス体制



コンプライアンス

リンテックグループでは社是「至誠と創造」に基づき、従業員一人ひとりが自らを厳しく律するよう努めています。2014年2月には、役員と管理職を対象にコンプライアンスアンケート調査を実施しました（回答率：2014年86.8%/2013年88.8%/2012年68.6%）。

また、イントラ **コンプライアンスアンケート回答率**

ネット上に「コンプライアンスに関する自己チェックシート」と「コン

86.8%

プライアンス研修資料」を掲出しており、全ての従業員がこれらの資料を活用し、自らの行動の確認や所属組織でのコンプライアンス教育を実施しています。



吾妻工場でのコンプライアンス教育

人権・労働に関するグローバル調査

リンテックグループでは2014年1～2月に、全グループ会社と全事業所を対象とした、人権および労働に関する実態調査を行いました。調査により、各国・各地域の法令遵守はもちろん、リンテックグループの行動規範が理解され、基本的人権が尊重された安全で健康な労働環境が確保されていることを確認しました。今後も年1回定期的に調査を行い、実態把握とその改善に活用していきます。

独占禁止法の遵守／汚職、贈収賄の防止

リンテックグループでは、新たに作成した「独占禁止法遵守マニュアル」を2013年10月に役員と管理職および事業統括本部所属の従業員に配付し、営業職を対象に飯田橋オフィスにて講習会を4回実施しました（計約190人参加）。また、講習会後のアンケートに記載されていた質問には、総務・法務部から個別に回答し、理解を促しました。

2013年12月にはリーガルニュース「独占禁止法」を発行。さらに2014年1月には独占禁止法に関するeラーニングを実施するなど、従業員への啓発活動を行っています。

行動規範ガイドラインの見直し

リンテックグループでは、従業員の行動規範を記載する小冊子を発行し、一人ひとりの意識啓発に努めています。2014年4月には内容を見直した行動規範ガイドラインを発行し、よりグローバルでの行動規範となるようサプライチェーンにおけるCSRマネジメントや人権に関する内容などを充実させました。また、最近の社会動向を反映し、情報セキュリティーやSNSに関する内容を盛り込みました。→P8に詳細を記載



りんりかわら版による倫理観の醸成

リンテックでは2006年より、行動規範の遵守および倫理観の醸成を目的に、誰でも分かりやすい川柳に解説をつけた「りんりかわら版」をイントラネットに掲出しています。2014年4月1日には通算で185句に達しました。

また、これらの川柳をまとめた小冊子「りんりかわら版 守ってマスカ!？」を年1回発行しており、2014年4月にVol.7を発行。行動規範の遵守および倫理観の醸成に役立てるとともに、お客様やお取引先にも紹介しています。



リスク管理

リンテックグループでは、グループ全社を対象に会社経営に関わるあらゆるリスクを洗い出し、緊急度や重要度に応じて改善に取り組むなど、問題発生防止に努めています。また、各本部長から成る「リスク評価委員会」を設置し、リスク管理体制の強化を図っています。

BCP(事業継続計画)*1

リンテックではこれまで、地震をはじめとするさまざまな災害発生時に、製品の供給を継続し早期に事業を再開できるよう、BCPの策定に取り組んできました。

2013年4月から、BCPをより効果的・実践的に運用するための管理体制であるBCMS(事業継続マネジメントシステム)*2を全社で構築すべく検討を開始しました。災害発生時の対応手順の妥当性を高めるために、演習・訓練や内部監査などBCPを継続的に改善する仕組みの構築を進め、2014年3月11日には「ISO22301:2012」の認証を取得しました。

→P10-13に詳細を記載

情報セキュリティー管理

リンテックでは「情報セキュリティー運用細則兼内部監査チェックリスト」に基づき、各部署で内部監査を実施しています。2013年3月に制定した「リンテックグループ ソーシャルメディアポリシー*3」と「ソーシャルメディアに関する禁止規程」の解説として「ソーシャルメディア ガイドライン」および「過去実際に起きたソーシャルメディアに関する事件」の資料をイントラネットに掲出しました。2013年6月にはソーシャルメディアに関するe-ラーニングを実施し、周知・徹底を図っています。

ヘルプライン

リンテックでは、職場の悩みや法令違反を相談する窓口として、ヘルプライン(内部通報制度)を設けています。迅速な相談と調査ができるよう、2008年4月からは第三者機関である顧問弁護士を相談窓口に加えしました。また行動規範ガイドラインでヘルプラインを紹介するなど社内周知を行い、仕組みを活用することで問題の早期発見・解決を図っています。

Voice 01

CSRワーキンググループで活動を推進

マディコ社 法務部 部長 Daniel MacKay (ダニエル・マッケイ)

マサチューセッツ州ウーバンとフロリダ州セントピーターズバーグの従業員で構成された「CSRワーキンググループ」をリードすることは、私の喜びです。当チームでは、コーポレート・ガバナンス、倫理研修、コンプライアンス、リスクマネジメント、環境、健康、安全、購買、人事、労働、社会

貢献に向けて、2014年にISO26000の基本原則を達成する目標を立てました。この目標には生物多様性への取り組みも含まれており、推進チームを設置しています。これらの分野の改善に向けて取り組むこと、またリンテックグループで学んだことを共有する機会を楽しみにしています。



*1 BCP: →P11に記載
*2 BCMS: →P11に記載

*3 ソーシャルメディアポリシー: FacebookやTwitterなどSNSの企業利用に関するガイドライン。

お客様のために

お客様からの期待に応えるために、製品の安定供給、品質管理の徹底およびサービス向上を推進していきます。

品質保証

リンテックグループでは、“ものづくり”の原点に立ち、品質・環境・安全を基本とした製品開発・製造・販売に努めることにより、あらゆるステークホルダーから信頼を得られる会社を目指しています。ISO9001*1、ISO14001*2、ISO22301*3などの国際標準規格を基本としたマネジメントシステムを構築し、品質管理、環境配慮、事業継続などを含めた事業活動の中で、お客様に真に喜んでいただける品質づくりに常に挑戦し続けています。WEB

品質保証体制

リンテックグループでは、国内外の主要生産拠点を中心にISO9001の認証を取得していますが、さらなる体制強化のため、営業拠点や開発拠点などの対象部署の拡大認証や、関連組織の統合認証などに取り組んでいます。全社一丸となった三位一体（営業・開発・生産）の体制をより一層強化し、スピーディーでこまやかなお客様対応に努めています。

ISO9001の認証取得状況

	2011年度	2012年度	2013年度
認証取得数	21	22	21

注) 2013年度は、三島工場と小松島工場を統合しました。

CS(お客様満足)向上のために

お客様に安心して製品を使っただけのように、リンテックグループではさまざまな方法で製品情報の開示を行っ

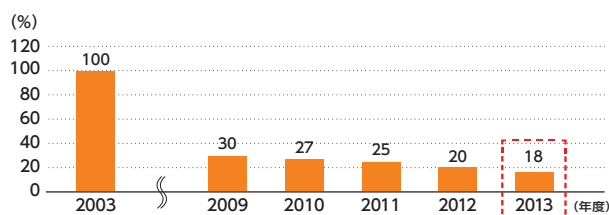
ています。安全データシート(SDS)の発行や化学物質調査の回答もそれらの一環です。幅広い分野で使用されている当社製品に求められる情報は多岐にわたり、それらを分かりやすい情報として提供することがCS向上につながると考えています。例えば粘着製品では、品種ごとに特徴や構成、物性データなどを記載した技術資料を準備。多くのお客様にお使いいただく製品だからこそ、そのご要望にお応えするため約1,200品種に及ぶ資料をそろえています。これからも喜んでいただけるリンテック資料数製品を目指して、さまざまな取り組みを進めていきます。

約1,200品種

品質事故の予防

リンテックではISO9001を基本としたQMS(品質マネジメントシステム)活動を行っており、中でもデザインレビュー*4の充実に力を注いでいます。そのためには、FMEA*5やFTA*6、統計的手法を取り入れたSPC*7などを体系的に管理し、これらの手法を利用することで、事故を事前に予測し適切な対応を取り、事故の予防に努めています。

品質事故件数比率 (2003年度の件数を100%とした比率)



Voice 02

喜んでいただける品質づくり

リンテック・インダストリーズ(マレーシア)社 技術課 品質保証 係長 Lim Eng Sneah (リム・エン・スネア)

リンテック・インダストリーズ(マレーシア)社では顧客満足度を一層上げるために、製品の品質向上と継続的改善を実行するチームを設置しています。製品やプロセスに関連した品質問題や新しい改善項目などを毎月

の会議で議論しています。また、クレームからの是正と予防措置の有効性の確認、潜在的な問題の予防についても議論しています。スローガン「みんなが喜ぶ製品をつくろう」は、私たちの目標でありコミットメントです。



*1 ISO9001: 品質マネジメントシステムの国際標準規格。

*2 ISO14001: →P3に記載

*3 ISO22301: →P5に記載

*4 デザインレビュー: 開発における成果物(仕様書、設計書など)を、製造部門や営業部門など異なる立場でチェック・評価する方法。JIS(日本工業規格)や

ISO9000シリーズにおいて定義されている設計審査。

*5 FMEA: Failure Mode and Effect Analysisの略称。潜在的な故障・不具合の体系的な分析方法。

*6 FTA: Fault Tree Analysisの略称。故障・不具合といった事象の要因を、ツリー形式で解析する方法。

お取引先との協働

リンテックグループでは、お取引先との共存共栄を目指して、公正で透明性の高い取引に努めています。

公正な取引

リンテックグループでは、全てのお取引先の皆様を「相互発展を目指すパートナー」と考えて信頼関係の構築を目指しています。そのために自由な競争原理に基づく公正・透明な取引を行うことを基本方針としています。お取引先の選定に当たっては広く門戸を開き、環境保全の取り組みなども含めた適正な評価を行うとともに、関連法規・社会規範を遵守した調達活動を行っています。

CSR調達

リンテックグループでは「リンテック原材料調達基本方針」を掲げ、お取引先の皆様にさまざまな機会を通して人権尊重、労働・安全衛生、品質・安全性確保、情報セキュリティ、企業倫理などのあらゆる観点からCSRの徹底をお願いしています。2013年度はお取引先アンケートを実施し、原材料のお取引先約500社のうち取引金額上位49社にアンケートを依頼し、その全てのお取引先から回答を頂きました。CSRに関するアンケート項目では人権尊重や児童労働の禁止、強制労働の禁止など計13項目を確認しました。

今後もアンケートによる現状の把握とその結果に基づいた調達活動の改善を行っていきます。[WEB](#)

取引先数

2,794社

グリーン調達

リンテックグループは調達における環境負荷低減を推進するため、「リンテックグリーン調達方針」に従い原材料、部品、副資材の化学物質管理を徹底しています。新たな材料を調達する場合にはお取引先に協力いただき、当社での管理物質の含有調査を行っています。また、新たな規制が発生した都度、該当物質の含有調査をお願いしています。これらの調査を迅速に正確に行うには、お取引先の理解と、お取引先での環境保全活動や化学物質管理の推進が重要です。引き続きコミュニケーションの強化を図りながら、グリーン調達を推進していきます。[WEB](#)

紛争鉱物への対応

リンテックでは、採掘された鉱物が武装勢力の資金源となる「紛争鉱物」は重大な社会問題であると認識し、原材料における「紛争鉱物」の使用状況を調査し、原材料としてそれらを使用していないことを確認しています。また、今後も「紛争鉱物」を不使用とする調達管理を行っていきます。

BCPにおけるお取引先との協働

リンテックでは、当社製品の安定供給に必要な原材料の供給先であるお取引先に対して、その事業継続能力の評価を進めています。2013年度は、特定製品に対して①当社向けの在庫保有量、②お取引先における原材料購入ルート、③生産拠点および設備の防災対応、④代替生産拠点の調査を実施しました。

また、お取引先全体に対しては、BCPを導入し組織的に運用する体制の整備や、インシデント*8発生時に対応する組織や手順の整備についての調査を進めています。

Voice 03

お取引先への品質監査・環境監査

本社 品質保証部 調査役 橋爪 久

リンテックグループでは源流管理強化および良好なパートナーシップの構築を目的に、お取引先の供給者監査を計画的に実施しています。2006年度より開始したこの監査も、2013年度末には70社、200件(品質

監査190件、環境監査10件)の実績となっています。今後も供給者監査を通してお取引先との関係強化を図り、お客様に対しより高品質で安全・安心な製品をお届けするよう努めていきます。



*7 SPC: Statistical Process Controlの略称。少数の標本を頻繁に採取し品質を検査することで、工程の変化を検出する方法。

*8 インシデント: 中断や障害、損失、緊急事態・危機になり得る、またはそれらを引き起こし得る状況。

[WEB](#) 以下の情報はCSRサイトで詳細を御覧ください。
リンテックグループ品質・環境・事業継続方針、リンテック原材料調達基本方針、
リンテックグリーン調達方針、リンテック木材パルプ調達方針、グリーンパルプ・ウェイ

従業員とともに

～働きがいのある職場環境に～(人権・雇用・人材育成)

リンテックグループでは、全従業員が明るく活力を持って仕事ができるように、さまざまな取り組みを行っています。

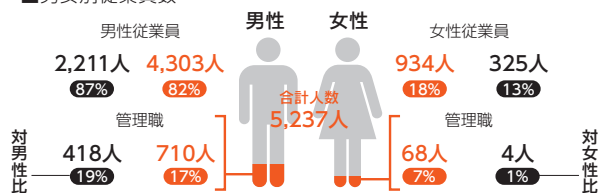
人権と多様性の尊重

リンテックグループでは、全従業員が社是「至誠と創造」の下、ともに働いています。全従業員が平等に働きがいを持てるよう、人種、信条、性別、学歴、国籍、宗教、年齢などによるあらゆる差別的取り扱いをせず、従業員一人ひとりの多様性(ダイバーシティ)を尊重*1しています。また、2011年には強制労働や児童労働の禁止を原則とする「国連グローバル・コンパクト」に参加しました。今後、全従業員が互いを認め合いながら成長を続けることを目指していきます。

95%

雇用状況

男女別従業員数



※対象範囲:全リンテックグループ従業員(海外:2013年12月31日現在 国内:2014年3月31日現在)
※黒文字の数値の対象範囲:リンテック(株)(2014年3月31日現在)

海外法人従業員の現地外国人比率



※対象範囲:全海外グループ会社(2013年12月31日現在)
※現地採用の日本人従業員は、現地従業員として算出しています。
※日本人は日本からの出向者数を表しています。

人権尊重の労務管理と教育

リンテックグループでは、企業活動の根幹に「コンプライアンス」があるとし、国内外の企業活動において「関連法規」並びに「社会ルール」の遵守を徹底しています。これは従業員の採用や就労に関しても同様であり、不当な差別行為、児童労働、ハラスメントの禁止など労働関連法規を遵守した労務管理を行っています。また、新入社員35人に対し「国連グローバル・コンパクトとCSR」に関する研修を行うなど、人権教育も進めています。

障がい者雇用

リンテックは障がい者の雇用に努めていますが、2013年度の通期雇用率は1.79%となり、法定雇用率である2.0%を下回りました。各事業所において障がい者雇用を促進し、2014年度は法定雇用率達成を目指します。[WEB](#)

ジョブリターン制度

従業員の働き方の選択肢を広げるため、リンテックでは2010年4月からジョブリターン制度を導入しています。出産や家族の介護、配偶者の転勤など、さまざまな家庭の事情により一度は自己都合で退職した社員を即戦力として再雇用しています。[WEB](#)

高齢者雇用

リンテックでは高年齢者継続雇用を行っており、基本的には希望者全員を再雇用できる規定としています。2013年度は定年退職者23人のうち15人を再雇用しました。再雇用者は長年培ってきた技術を生かし、さまざまな場で活躍しています。[WEB](#)

Voice 04

全従業員の仕事と家庭の調和を目指して

伊奈テクノロジーセンター 業務管理部 事務課 主任 三井 雅美

リンテックは「女性活躍促進検討委員会」を設置しました。私は生産部門を担当し、各工場の女性就労環境の現状や意見などを取りまとめました。工場により風土や歴史があり、多くの方から幅広く貴重な意見を聞かせていただ

いたことに感謝しています。子育てや介護は重要な課題です。性別や未婚・既婚の垣根を越えて、仕事と家庭の調和を考える必要があります。全従業員が平等に制度を活用し、周囲も支援できる環境づくりに努めていきます。



*1 多様性(ダイバーシティ)の尊重: 人や集団間に存在する多様な個性を尊重することで、適材適所での各能力の発揮や多様な視点での問題解決、独創的なアイデアの創出などを促進。

労使関係

リンテックでは、労働組合として「リンテックフォーレスト」が組織されています。労使協議では、リンテックとリンテックフォーレストが互いの立場を尊重した姿勢で臨み、話し合いによる問題解決を図っています。また、定期的に開催する協議会では、事業推進のための創造的な意見交換を行っています。WEB

ワークライフバランス

リンテックでは、社員が安心して仕事に取り組み、その能力を十分に発揮できるよう、働きやすい職場環境の整備や仕事と生活の調和に取り組んでいます。休暇制度では、本人に限らず家族が病気やけがをした際の看護にも利用できる保存休暇制度や、地域貢献活動への参加にも利用できる社会貢献休暇制度などを導入しています。2013年4月からは、育児休業制度の対象を満3歳未満から小学校未就学児までに、介護休業制度を93日から2年(730日)にするなど、勤務時間の短縮措置を行いました。

今後も安心して仕事に取り組める体制づくりに努めます。WEB



震災復興支援のための社会貢献休暇制度の利用

各制度の利用者数

(人)

制度	2011年度	2012年度	2013年度
介護休業制度	2	0	1
介護休暇制度	2	2	3
保存休暇制度	55	51	61
出産休暇制度	13	16	16
育児休業制度	22	19	26
子の看護休暇制度	11	10	11
時短・時差勤務制度	11	10	21
社会貢献休暇制度	23(延べ41日)	26(延べ54日)	26(延べ50日)

メンタルヘルス対策

リンテックグループでは、予防型EAP*2システムを導入しています。年1回の「心の健康診断」により、各自がストレスの状況を把握し自己管理に役立てるとともに、組織ごとの分析結果は経営層にフィードバックされ改善が図られます。2013年度はグループ全体で3,357人を対象に実施し、受診率は96.6%でした。また、リンテックグループの社員とその家族のために、健康、メンタルヘルス、育児、介護、法律・家計などの悩みを専門家に相談できる、サポートホットラインを設置しています。WEB

長時間労働対策

リンテックでは長時間労働の弊害を防ぐため、人員の適正配置や業務量の平準化を図るよう努めています。体や心に過度の負担を掛けないように上司が残業時間を管理し、職場ごとにノー残業デーやフレックス勤務制度を設けるなど、業務を効率よく計画的に進めるための仕組みを導入しています。また、こまやかな労務管理ができるように、勤怠管理システムも導入しています。

全社階層別研修

リンテックでは、“会社と社会の発展に貢献できる人づくり”を目指しています。多様な価値観を持つ社員一人ひとりが成長と達成感を実感できる人材教育プログラムとして、全社階層別研修を導入しています。この研修は、社員のスキルアップはもとより、各人の自発的なキャリア・デザインを支援しています。WEB

全社階層別研修
参加者合計

426人

Voice 05

社会貢献休暇制度が活動のきっかけに

本社 人事部 係長 島中 富男

2013年7月、会社が募集する東日本震災支援プロジェクトとして3日間、失われた防潮林の再生を目的としたどんぐりの苗木づくりに参加しました。震災の復興支援として何かをしたいと考えていたとき、社会貢献

休暇の利用は良いきっかけとなりました。沿岸部の被災地にはほとんど建物がなく、復興には程遠い状況だと実感しました。参加した他企業の方々とは、今でも一緒に継続してボランティア活動に参加しています。



*2 予防型EAP: Employee Assistance Program(従業員支援プログラム)の略称。既に不調を訴えている従業員への「対処」に加え、健康な従業員に対する「予防」にも重点を置き、従業員が働きやすい職場をつくることで生産性を上げようとする従業員プログラム。

WEB 以下の情報はCSRサイトで詳細を御覧ください。
障がい者雇用率、ジョブリターン制度利用者数、高齢者雇用者数、リンテックフォーレストの状況、社員支援の制度、予防型EAPシステムの概要、2013年度階層別研修スケジュール、2013年度研修内容と受講者数

個別教育プログラム

品質教育

お客様満足の向上に向け、リンテックグループでは高品質な“ものづくり”のためのQMS(品質マネジメントシステム)とEMS(環境マネジメントシステム)活動を行っています。継続的活動には従業員の理解と意識向上が不可欠です。そこで当社では外部講習や通信教育への参加はもとより、e-ラーニングを含む社内教育を積極的に実施しています。2013年度のQMS社内教育および品質に関するe-ラーニングでは、27講座を実施し、延べ5,683人が受講しました。WEB

QMS社内教育および品質の
e-ラーニング延べ受講者数

5,683人

環境教育

リンテックと東京リンテック加工(株)では、ISO14001の自覚教育を実施しています。事業所ごとに人数や回数などを考慮した実施計画を立案し、分かりやすい図表やイントラネットの「リンテック環境・安全インフォメーション」を利用した資料を作成するなど工夫を凝らしています。また、生物多様性や化学物質管理の研修、緊急事態対応訓練などは別日程で行うなど、教育内容や時期も工夫し、継続的に従業員の環境意識向上に努めています。さらにe-ラーニングでも、生物多様性や製品含有化学物質管理など当社の取り組みに対する従業員の理解を促進しています。WEB

2013年度 環境教育延べ受講者数(人)

- 本社：291 ● 吾妻工場：716 ● 熊谷工場：401
- 千葉工場：252 ● 龍野工場：367 ● 新宮事業所：410
- 小松島工場：257 ● 三島工場：472 ● 新居浜加工所：39
- 伊奈テクノロジーセンター：166 ● 研究所：348
- 東京リンテック加工(株)：142

リンテック環境・安全インフォメーション

環境教育の一環として、イントラネットの「リンテック環境・安全インフォメーション」にて、環境関連やISO14001(活動実績/サイト事務局紹介)、化学物質管理関連(REACH規則*1や規制情報など)、省エネルギー、安全衛生などの情報を発信しています。2013年度は12回発信しており、今後も定期的に情報を更新し従業員のさらなる環境意識向上を図っていきます。



リンテック環境・安全インフォメーション

自発的教育制度

自己啓発通信研修

リンテックでは希望する社員に対し、年2回の通信研修を実施しています。この通信研修は自己啓発を目的とし、期間内の受講修了者には会社が費用の一部を補助する仕組みになっています。通信研修の内容は経営、ビジネススキル、パソコン技能、外国語、教養、各種資格取得などさまざまです。今後も自己啓発の一助として継続していきます。

自己啓発通信研修受講者数

年度	2011年度	2012年度	2013年度
延べ受講者数(人)	337	276	254
修了率(%)	61	59	59

語学研修

リンテックでは、グローバルに活躍できる社員を育成するために、自発的学習のサポート制度として語学研修制度を導入しています。受講希望者は自薦を行い、所属長・本部長推薦のうえ選定会議により決定されます。2013年度は13人が研修を受講しました。研修時間は個人の語学レベルにより異なりますが、約100~150時間を掛けて目標レベルへの到達を目指します。

Voice 06

世界を意識し、対話力を習得

本社 経営企画室 飛留間 哲

2013年度から語学研修で英語を学習しています。対話学習ではさまざまなシーンを想定し、間違っ理解していた表現を是正したり、よく使う表現を学んだり、より自然な会話ができるようになりました。以前

は英語を話すことにためらいがありました。が、研修によって苦手意識を払拭することができました。今後は身につけた対話力を生かし、国境を越えて活躍していきたいと思っています。



*1 REACH規則：EUの化学物質規制で、化学物質の登録、評価、認可および制限に関する規制の略称。EU諸国への化学物質を年間1t以上輸出する場合に登録が必要。また、製品中に認可対象候補物質に該当する化学物質を0.1%以上含有する場合は届け出が必要。

従業員とともに

～安全な職場環境～(安全防災)

リンテックグループで働く人々が、安全で安心して働けるよう、さまざまな取り組みを行っています。

労働安全

労働安全衛生方針

リンテックグループは、2010年に「リンテック労働安全衛生方針」を制定し、OSHMS(労働安全衛生マネジメントシステム)*2に準拠して継続運用しています。

全社的な活動として安全相互監査計画や火災予防の着火事故予防パトロール計画を、工場での活動として年度安全衛生計画をそれぞれ策定し、OSHMSによるPDCAサイクルを回しています。また、工場で安全活動に従事しているメンバーと安全事務局メンバーによる安全検討委員会では、全社的な安全ルールを検討しています。2013年度には新設備の安全認定、安全柵・安全カバー、着火事故災害防止のルールなどを制定しました。[WEB](#)

年間安全衛生計画

リンテックグループでは安全衛生活動の年間計画を策定し、PDCAサイクルを回すことで安全衛生を管理しています。

2013年度は、安全相互監査・着火事故予防パトロール、トップパトロールを実施しました。また各工場においても工場トップ、管理職、労働組合メンバーによるパトロールや、従業員による自主パトロールなどを行いました。さらに、メーリングリストの範囲を拡大し、全事業所や役員にも安全衛生委員会の議事録を配信することで情報を共有しています。

年間安全衛生計画に含まれる項目

- 安全衛生委員会の開催 ●パトロール計画 ●安全教育 ●訓練計画
- 点検・測定予定 ●作業環境測定 ●健康診断 ●内部監査 ●マネジメントレビューなど

安全衛生委員会・衛生委員会

リンテックグループでは毎月、職場の安全と衛生に関して各委員会で協議しています。2013年度は災害速報や委員会議事録を配信する範囲を拡大し、グループ全体での安全管理を推進しました。

職場の安全と衛生に関する委員会

委員会	対象	活動内容
安全衛生委員会	工場・研究所	○計画の実施 ○災害の発生状況、安全教育実施状況、設備の点検結果、パトロール時の指摘・改善状況などの情報共有
衛生委員会	本社や営業部門がある事業所	○健康や安全運転、防災活動などについて協議

休業災害

リンテックグループでは、2013年度の休業を伴う労働災害(休業災害)は4件発生し、休業日数は累計245日でした。2013年度は、勤続年数の短い作業員による休業災害が発生したため、安全教育を強化しました。また、製品ロールの取り扱いが原因の休業災害が2件発生しており、今後も安全ルールの明確化を進め、労働災害ゼロを目指して取り組んでいきます。(海外グループ会社を除く)

休業災害の発生状況

年度	2011年度	2012年度	2013年度
休業災害発生件数(件)	2	6	4
休業日数(日)	31	361	245
発生場所	協力会社	リンテック、協力会社	リンテック、協力会社

Voice 07

知識と実地の両訓練で備える

リンテック・タイランド社 安全課 担当係長 Zeeroh Madsa-i (シーロー・マッサイ)

リンテック・タイランド社では消防総合訓練を年1回実施しており、2013年度は11月15日に行いました。午前中は火災に関するセミナーを受講し、出火原因別の消火方法を勉強しました。午後は火災避難訓練と

して、消火器や消火ホースを使つての実地訓練や避難訓練を行いました。避難完了までの目標時間は5分以内。担架に人を乗せた病院搬送の訓練も行いました。また、避難訓練も年4回実施しています。



*2 OSHMS: Occupational Safety and Health Management System (労働安全衛生マネジメントシステム)の略称。事業所における安全衛生水準の向上を図ることを目的とした、事業者の自主的なマネジメントシステム。

[WEB](#) 以下の情報はCSRサイトで詳細を御覧ください。
技術に親しむ会、CSR勉強会／情報セキュリティ教育、
リンテック安全衛生マネジメントシステム組織図、
リンテック労働安全衛生方針、リンテック労働安全衛生マニュアルの概要

無災害に向けて

リンテックグループでは、無災害に向けた表彰制度を設けています。龍野工場は、2014年1月27日に連続完全無災害時間*1100万時間を達成しました。また、安全最優先、リスクアセスメントによる設備の安全化、TIP活動*2による5S*3の実践により全従業員の安全意識が高まり、2012年4月24日から約23か月間で、完全無災害を継続できました。これからも慢心せず、今までの活動をさらにレベルアップし、全従業員が団結して連続完全無災害時間の継続に努めていきます。

(海外グループ会社を除く)



社内表彰を受ける龍野工場

2012年4月24日～2014年3月31日
連続完全無災害を継続(龍野工場)

1,105,000時間

2013年度 連続完全無災害達成時間の状況

(2013年4月1日～2014年3月31日)

達成年月	事業所	達成時間(時間)	
2013年	4月 1日	千葉工場・新宮事業所・伊奈テクノロジーセンター	1年間無災害
	5月20日	研究所	100万
	5月28日	新宮事業所	100万
	6月 8日	三島工場	75万
	6月18日	伊奈テクノロジーセンター	100万
	7月23日	千葉工場	75万
	8月 2日	吾妻工場	50万
	8月23日	龍野工場	75万
	10月30日	研究所	125万
	12月 2日	吾妻工場	75万
2014年	1月27日	龍野工場	100万

各生産拠点でトップパトロールを実施

“安全最優先”を合い言葉に、大内会長(前社長)が国内外の生産拠点・研究所のトップパトロールを行いました。大内会長は製造現場で作業する従業員へ声を掛けながら、安全作業の励行や整理整頓などの5Sの状況を視察しました。各拠点では、このトップパトロールでの結果を基に、現場管理レベルのさらなる向上を図るためのさまざまな改善策を実施しました。

BCMSにおける防災対策

BCMS(事業継続マネジメントシステム)における防災・減災対策では、人命最優先としたリスクアセスメントを実施しています。リンテックでは全ての拠点において災害別の危険を特定し、分析・評価を実施。防災対策が不十分な場合は、拠点ごとに対策を立案し実行することをBCMSのルールに定めています。また、これらの災害対策は演習を行うことで、対策の具体性・実効性を高めています。

→P10-13に詳細を記載



本社でのけが人移送の演習

防災訓練

リンテックでは、BCMS演習として各拠点でさまざまな訓練を実施するとともに、事業継続に関する手順書の見直しや災害用備蓄品の準備を進め、リスクの低減に努めています。

2013年10月16日には「全国的な震度6弱の地震発生」を想定し、国内全24拠点の従業員、並びに協力会社従業員(計約3,600人)が参加し、安否確認訓練を実施しました。今後も年に複数回の訓練を実施する予定です。WEB



本社の災害用備蓄品

Voice 08

救命に向けた訓練の実施

仙台支店 副支店長 熊谷 正幸

仙台支店では2014年2月、事業継続マニュアルと手順書を基に、各自の役割や必要な力量確認のため、心肺蘇生とAED*4使用の演習を実施しました。支店勤務者全員が訓練に参加し、救命に必要とされる迅速

な心肺蘇生・AEDの使用を体験しました。当支店は3年前に東日本大震災を経験していることもあり、全員が人命最優先を実感しています。今後も改善を重ね、継続的に演習を行っていきます。



*1 連続完全無災害時間：各事業所で常時働いているリンテックおよび協力会社の従業員を対象にした、労働災害(不労災害、休業災害、労災該当の通勤途上災害)がない労働時間の総累計。

*2 TIP活動：龍野イノベーション・プロジェクト活動の略称。2009年10月にスタートした、龍野工場における現場改革プロジェクト。

*3 5S：整理、整頓、清掃、清潔、しつけの頭文字の五つの「S」を取ったスローガン。職場環境の維持や改善に用いられる。

*4 AED：Automated External Defibrillator(自動体外式除細動器)の略称。心室細動状態に陥った心臓に電気ショックを与えて正常な状態に戻す医療機器。

地域社会とともに

(コミュニティ参画)

リンテックグループは、地域や社会に支えられ、その一部であることを認識し、社会との共生を図るためのさまざまな貢献活動を行っています。[WEB](#)

継続的被災地支援

リンテックグループでは、東日本大震災からの復興に向けた継続的支援活動として義援金の寄附を行ってきました。2012年度からは一般社団法人グローバル・コンパクト・ジャパン・ネットワーク主催の、被災沿岸部の防潮林再生を目指す「わたりグリーンベルトプロジェクト」に参加しており、2013年度は4回で計10人の従業員が現地での支援活動を行いました。また本社では福島物産展を開き、福島の経済活動を応援しました。今後もさまざまな形で復興支援活動を継続していきます。



「わたりグリーンベルトプロジェクト」の苗木づくり



福島物産展

障がい者支援

2013年9月、東京ドームで行われたプロ野球「北海道日本ハムファイターズ対福岡ソフトバンクホークス」の試合に、板橋区在住の障がい者の方とその介助者計107人をご招待しました。本活動は今回で7回目を迎え、観戦後には「ありがとう、楽しかった」「来年もこの催しにぜひ参加したい」など、多くの感謝の言葉と笑顔を頂きました。今後も地域の皆様に喜んでいただける社会貢献活動を継続していきます。

地域安全活動

熊谷工場は長年にわたり熊谷地方職場警察連絡協議会に加入し、現在は副会長企業として会の運営に携わっています。協議会では、企業と警察の連絡を密にすることで、防犯、交通安全対策、青少年の非行防止に努めています。今後も地域安全・暴力排除推進に積極的に取り組んでいきます。

美化清掃活動

リンテックグループでは、全ての工場で周辺地域の美化・清掃活動を継続的に実施しています。千葉工場では「ごみゼロ運動」として工場のあるみどり平工業団地周辺で、熊谷工場では「荒川河川敷の清掃」として工場周辺の荒川土手で、小松島工場では「リフレッシュ瀬戸内」として横須海岸で、その他の事業所では事業所周辺の清掃活動を行っており、2013年度は国内全事業所で延べ2,499人が参加しました。[WEB](#)



千葉工場での清掃活動

地域の美化清掃活動への参加者 延べ

2,499人

Voice 09

オランダでの社会貢献活動

リンテック・ヨーロッパ社 ゼネラルマネージャー 草刈 一浩

オランダのアムステルダム近郊には8万人以上の家族や友人のいないお年寄りが住み、祝日やクリスマスも一人で過ごしています。財団法人Enma Foundationは彼らの自宅を訪問し話し相手となり、買い物に

付き添い、イベントを開催し、特別な日に花を贈るなどの奉仕活動を行っています。リンテック・ヨーロッパ社では地域社会貢献として、毎年スポンサーとなり寄付を行い、活動を支援しています。



企業市民として地元の期待に応える 地域に根ざした社会貢献活動

リンテックグループは、地域や社会に支えられる企業として、社会が抱えるさまざまな課題に対する地道な活動を続けています。本特集では、リンテック本社がある板橋区において継続的に実施している障がい者支援活動をご紹介します。

板橋区や 地元ボランティア団体と連携し 手づくりでイベントを開催

地域や社会からの理解なくして、企業が事業活動を継続することはできません。リンテックグループのCSRは、地域の方々の声に真摯に耳を傾け、その期待に応える取り組みを行っています。

リンテックグループの社会貢献活動のテーマは、「身の丈に合った活動」「継続可能な活動」「地域密着型の活動」の三つ。例えばリンテックでは、これらのテーマに沿い、「リンテックふれあいコンサート」を開催しています。「音楽を通じて皆さんとつながる」を目的に、本社のある板橋区にお住まいの障がい者と介助者、近隣町内会の方やリンテック従業員、その家族などが参加する音楽イベントで、2010年から始まりました。

「開催当初から“手づくりのイベント”にこだわりました」と、社会貢献委員会の委員長を務め、本イベントの企画に携わった尾藤明彦(以下、尾藤)は言う。

「板橋区との共催により、当社従業員の手で会場準備やプログラム企画、告知活動などを行っています。コンサートもジャズバンドに当社社員が所属していたり、板橋区ダウン症児親の会「ほほえみの会」の会員の子供たちにより、手話ダンスやハンドベル演奏を行っていただくなど、演奏者と観客が一体となって音楽を楽しめるイベントになるように心掛け

ています」(尾藤)

障がいを抱えた方やそのご家族が、音楽イベントに参加するには数多くのハードルがあります。実際、これまでの参加者の中にも、初めてコンサートに参加されたという方が数多くいらっしゃいました。

「来場者の方々に楽しんでいただくため、開催のたびに試行錯誤しています。しかし、演奏に合わせてうれしそうにリズムを取る子供たちの笑顔を見ると、苦労も吹き飛びますね」と尾藤は語る。

また、コンサートを通して、さまざまな立場・状況の方と直接触れ合うことは、多様性(ダイバーシティ)*への理解を深めるうえでも貴重な経験となっています。

グローバルに広がる“地元”の 皆様の期待に応えるために

ふれあいコンサートは、リンテックグループのボランティア活動の一例に過ぎません。日本、そして世界の事業拠点では、地域雇員の支援や美化・清掃活動など地域に根ざしたさまざまな活動を展開しています。

これからもリンテックグループは、地域密着のポリシーを持ち続けながらグローバルなCSR活動を推進し、世界各地の“地元”の方々の期待にお応えできるよう尽力していきます。

* 多様性(ダイバーシティ)：
人や集団間に存在する多様な個性のこと。

社会貢献委員会 委員長
人事部 副部長
尾藤 明彦



社会貢献委員会
メンバー



ふれあいコンサート



「ほほえみの会」の子供たちによる
手話ダンス



「ほほえみの会」の子供たちによる
ハンドベル演奏

活動の企画・実行

プロ野球観戦へのご招待

リンテックの地域に根ざした社会貢献活動は、ふれあいコンサートの開催にとどまりません。例えば、2006年から、板橋区在住の障がい者や介助者の方々をプロ野球公式戦にご招待しています。



招待者の方々をお出迎えする従業員



従業員による参加者へのお弁当の配付



挨拶をする
安井副区長(左)と大内社長(現会長)

障がい児を持つ家族にとって、とても心強さを感じるイベントです

2013年秋のふれあいコンサートに親子で参加しました。こうした音楽イベントに娘と一緒に参加したのは初めての経験です。ジャズということで大人向けかとも思いましたが、アニメの主題歌なども演奏していただき、私も娘もとても楽しむことができました。また、大勢の観客の前でハンドベル演奏や手話ダ

ンスを披露し、誇らしそうな娘の姿を見ることができ、母親として大変うれしく思いました。ふれあいコンサートのように、企業側から率先して活動を行ってくださることは、障がい児を持つ家族にとって、とても心強さを感じます。今後もぜひ継続して開催いただきたいと願っています。

参加者
井出 多映さん(母)
井出 詩乃さん(娘)



約700人の観客でにぎわう会場



入口でお出迎えする従業員

参加者



会員招待

企画協力・会場提供

障がいの有無を超えたコミュニケーションが相互理解の良い機会となっています

私たち「ほほえみの会」は、ダウン症児や障がい者、その保護者を中心とした団体で、2010年の開催当初からふれあいコンサートにお招きいただいています。生の演奏を鑑賞できることはもちろん、リンテックの社員やそのご家族、近隣の方などとコミュニケーションを図ることができるという面でも、素晴らしいイベントだと感じています。障がいを抱える子供たちは、ふだんの生活の中で保護者や介助者など、人間関係が限定的になりがちです。ふれあいコンサートを通じて、子供たちの社会参加をサポートしていただき、また、障がいを持つ人、持たない人の相互理解を促していただいていることに感謝しています。

「ほほえみの会」
(板橋区ダウン症児親の会)
代表
齊藤 明子さん



板橋区
障がい者福祉課
福祉係 係長
金子 浩一さん

企業ならではの自由なアイデアに刺激を受けています

板橋区では自助・共助・公助の連携による街づくりを進めており、障がい者支援活動についても、行政だけではなく、区民や区内企業、NPO・ボランティア団体などが一体となった取り組みが重要だと思っています。リンテックと共催させていただくふれあいコンサートは、まさにこの連携による取り組みです。音楽イベントに参加

しづらい障がい者の方々に、生の演奏を楽しんでいただくという発想は私たちになく、そうした自由なアイデアに多くの刺激を受けています。今後もこれまで築いてきた関係を大切にしながら、誰もが住みやすい板橋区の実現に向けてご協力いただければ幸いです。



コミュニケーション

社会からの期待に応えるために、リンテックグループはステークホルダーの方々との積極的な対話を図っています。

お客様 国内外の展示会に出展

リンテックグループでは、より多くのお客様とのコミュニケーションを促進するため、国内外で開催される展示会に積極的に出展しています。2013年度は、計34回の展示会に出展し、リンテックの製品や技術に対する貴重なご意見をいただきました。



セミコン・ジャパン 2013に出展

お取引先 飯田橋オフィスの提供

リンテックグループでは、お取引先や関連組合とのコミュニケーション活動に力を入れています。その一環として2014年3月には、全日本シール印刷協同組合連合会のセミナー会場として飯田橋オフィスを提供しました。組合員の皆様約80人が参加するとともにインターネット中継も行われ、活気ある会合となりました。



飯田橋オフィスでのセミナー

地域社会 千葉県海岸保安林の再生に向けた活動

リンテックグループでは地域住民の声を聴くさまざまな活動を行っています。千葉工場では地域の期待に応え、東日本大震災で津波被害を受けた千葉県東部海岸保安林復興再生に向けて、千葉県緑化推進委員会と一丸となり保全活動を展開しています。2013年4月には、2,200本の苗木を植栽し、その後も下刈り作業や捕植作業*1へ参加しました。今後も地域の声に耳を傾けて活動していきます。



吉崎浜での下刈り

マスメディア 取材に対しての受け入れ

リンテックでは、新製品情報やイベント情報などを随時、各メディアにニュースリリースとして発信しているほか、取材や原稿執筆の依頼にも積極的に対応しています。2013年度はニュースリリースが約20件、取材対応・原稿執筆は約80件でした。

従業員 コミュニケーションマガジンの発行

リンテックグループとステークホルダーをつなぐ身近なツールとして、コミュニケーションマガジン「LINTEC」を日本語版・英語版・中国語(簡体字・繁体字)版で年4回発行し、グループ全従業員、お客様、お取引先、OB、マスコミ、官公庁などに配付しています。また、マテコ社やリンテック・コリア社でも、それぞれ独自の社内報を毎月PDF版で配信し、職場の円滑なコミュニケーションに役立てています。

CSRコミュニケーション

リンテックでは新入社員研修で、一般社団法人グローバルコンパクト・ジャパン・ネットワークの名取俊英事務局長に「国連グローバル・コンパクトとCSR」について講義をしていただきました。また、CSR勉強会を国内拠点と国内グループ会社で開催し、延べ1,065人が参加しました。



新入社員研修での講義

株主・投資家 積極的なIR*2活動

リンテックでは、適正株価の形成と企業価値の向上を目指し、さまざまなIR活動を実施しています。国内の機関投資家・証券アナリストに対しては、四半期ごとにIRミーティングや取材対応を行い、海外機関投資家に対しては、電話会議や証券会社主催の国内IRイベントへの参加に加え、継続的な海外投資家訪問を行い、当社への理解促進を図っています。また、個人投資家・株主の方への情報提供については、当社IRサイトの充実にも努めるとともに、株主通信誌「WAVE」を四半期ごとに発行しています。同誌では毎年、読者アンケートを実施しており、寄せられた声を誌面の企画やIR活動に生かしています。



<http://www.lintec.co.jp/ir/>

*1 捕植作業：植栽した際、枯れてしまい間隔が空いてしまった場所への植栽。

*2 IR：→P14に記載

環境マネジメント

「地球は一つ、大きな視野で快適環境に尽力しよう」をスローガンに、環境マネジメントシステムを構築し、多角的な取り組みを推進しています。

リンテックグループ品質・環境・事業継続方針

リンテックグループは、従来の「リンテックグループ品質・環境方針」に“事業継続方針”を加えた、「リンテックグループ品質・環境・事業継続方針」を新たに制定しました。この方針に基づき、環境分野ではエネルギー使用量・CO₂排出量に数値目標を設けるなど、より目標を明確にした環境保全活動を推進しています。WEB

環境分野におけるリンテック中期目標(2014年~2016年)

CO ₂ 排出量	対前年度原単位比で1.6%改善
電力使用量	対前年度原単位比で0.2%改善
廃棄物発生量	前年度発生量から0.1%削減
用水使用量	対前年度原単位比で2%削減

環境マネジメントシステム統合認証

リンテックグループでは、ISO14001のグローバル統合認証*3取得を進めています。2013年9月にリンテック・インダストリーズ(サラワク)社を、2014年3月にはリンテック・アドバンス・テクノロジーズ(台湾)社を統合し、海外グループ9社の統合を完了しました。これにより本社、国内10工場、研究所および東京リンテック加工(株)と合わせて22拠点になりました。引き続き、グループ体となった環境保全活動に尽力し、ISO14001のグローバル統合認証取得を進めていきます。

内部環境監査の実施

リンテックでは、環境マネジメントシステムに基づいた各サイトの適切な運用および法令・規定の遵守状況などを確認するため、サイト内部監査およびサイト相互監査を実施しています。さらに、サイト相互監査を担当する主任監査員*4養成にも力を入れており、2013年度は16人を養成し、累計164人となりました。

サイト相互監査担当の主任監査員人数

164人

生物多様性保全のための取り組み

近年、自然環境などの破壊により生態系が失われているため、生物多様性に対する危機感が高まっています。リンテックグループでは、リンテックグループ品質・環境・事業継続方針に“生物多様性の保全”を盛り込み、ISO14001のグローバル統合認証を取得した22拠点を中心に、2013年度から生物多様性保全に向けた活動を推進しています。今後も講習会の開催をはじめ、さまざまな活動を継続し、生物多様性保全に努めていきます。

「リンテックエコニュース」で生物多様性の情報を発信



Voice 10

地域に根ざした生物多様性保全活動

新宮事業所 製造部 副部長 塩谷 哲男

新宮事業所では、地域の生物多様性保全に向けて、河川や田んぼを含む事業所周辺の清掃活動を毎月1回行っています。また2013年5月には、「氷上回廊より見つめなおす、気候変動と生物多様性、暮らし方」と題した講習会を実施

しました。さらに、兵庫県たつの市のNPO法人「たつの・赤トンボを増やそう会」主催のヤゴを育てる田んぼに田植え(5月)、収穫祭(9月)にも参加しています。今後も、地域に根ざした生物多様性保全活動を積極的に展開していきます。



*3 グローバル統合認証：世界中にある複数の会社・事業所を一つの組織体としてまとめて取得する、ISO14001の認証。

*4 主任監査員：サイト相互監査実施の資格を持つ者。

WEB 以下の情報はCSRサイトで詳細を御覧ください。
活動に対する主な表彰、2013年度に出展した主な展示会、2013年度工場・施設見学の受け入れ、環境コンプライアンス、リンテックグループ品質・環境・事業継続方針

地球温暖化防止

事業活動を継続するうえで大きなリスクとなる地球温暖化や気候変動などに対応するため、さまざまな環境活動に力を注いでいます。

製造における取り組み

省エネルギー法への対応状況

国内リンテックグループ*1全体のエネルギー使用量は、原油換算で年間1,500kℓを超えています。そのため「エネルギーの使用の合理化に関する法律(略称:省エネルギー法)」の規程に基づき、特定事業者の指定を受け、エネルギー原単位を年1%改善することが求められています。2013年度は、生産設備の効率運転、空調管理やLED照明採用の拡大、圧縮空気の管理、排熱回収利用などの省エネルギー活動を推進し、電力削減に努めました。

省エネルギー推進委員会

「省エネルギー法」に対応するため、国内リンテックグループでは、省エネルギー推進委員の管理の下、各事業所のエネルギー使用データを毎月集計し、省エネルギー活動の推進に反映しています。2013年度は、委員会で“夏場の電力量の低減”や“燃料使用量の削減”などを討議し、各事業所にフィードバックすることで、省エネルギー活動の改善へ向けた取り組みを全社的に推進しました。

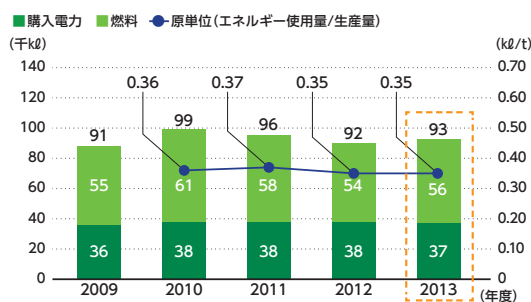
エネルギー総使用量・CO₂排出量

国内リンテックグループにおける2013年度のエネルギー総使用量(原油換算)は、生産量の増加により前年度から1.2%増加し、92.8千kℓとなりました。しかし、エネルギー原単位は0.0057kℓ/t(1.65%)減少し、0.3454kℓ/tに改善しました。

一方、2013年度のCO₂排出量は202.7千tとなり、目標排出量209千t以下を達成しました。

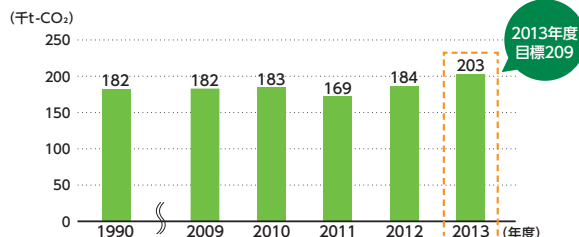
2014年度は、2013年度原単位比で、CO₂排出量は1.6%、電力使用量は0.2%の改善を目指しています。

エネルギー総使用量(原油換算)



注) 燃料とは、灯油、A重油、LNG、LPG、都市ガスです。

CO₂排出量



注) 1.CO₂排出量は、電力・燃料使用量におおのCO₂排出係数を乗じて算出しています。
2.1990年度のCO₂排出係数は、地球温暖化対策の推進に関する法律施行令第3条第1項で定める排出係数の2002年12月改正値を使用しています。2009年度以降のCO₂排出係数は、同施行令で定める排出係数の2010年3月改正値を使用しています。また、購入電力の使用にかかる排出係数には、当該施設に電力を供給している電力会社の実排出係数を使用しています。
3.上記排出量は、化石エネルギー起源の燃料によるCO₂排出量です。

Voice 11

年度目標達成に向けたCO₂削減活動

熊谷工場 原動課 主任 橋本 和典

埼玉県では行政への年度ごとのCO₂排出量の報告に対して第三者認証が求められており、リンテックグループでは熊谷工場と研究所が認証の対象になっています。2013年11月には、両事業所の基準年(設定済みの

3か年)の排出量について認証機関による審査を受け、排出量が確定しました。CO₂削減の年度目標も設定し、その達成に向けてCO₂削減活動を継続していきます。



*1 国内リンテックグループ: リンテック(株)およびリンテック(株)の営業拠点、東京リンテック加工(株)、大阪リンテック加工(株)、プリンテック(株)、リンテックサービス(株)、リンテックコマース(株)、(株)レンリ。
*2 トンキロ: 貨物の輸送量を表わす単位で、貨物のトン数とその輸送距離を掛け合わせたもの。1tの貨物を1km輸送した輸送量が1トンキロ。

排熱ボイラー設置によるエネルギーの有効活用

土居加工工場と小松島工場では、VOC(揮発性有機化合物)を処理するための排ガス処理装置(RTO式)に、排熱ボイラーを設置して蒸気の回収を行い、CO₂排出量の削減につなげています。2013年9月に千葉工場、12月に新宮事業所に同様の設備を導入し、さらなるCO₂排出量の削減に取り組んでいます。



千葉工場に設置した排熱ボイラー

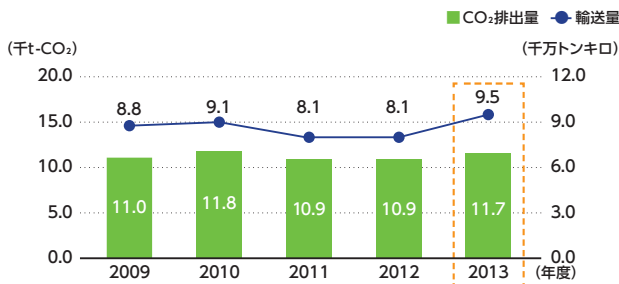
物流における取り組み

リンテックは省エネルギー法の定める特定荷主(委託貨物輸送量3,000万トンキロ*2/年以上)に該当しているため、これに対応するための計画を国に提出(年1回)しています。2013年度の輸送によるCO₂排出量は生産量の増加に伴い増加し、エネルギー使用量は約2.4%増加、一方、エネルギー使用量原単位(売上高当たり)は約0.7%減少しました。今後も引き続き、輸送効率向上に取り組んでいきます。[WEB](#)



熊谷工場における輸送頻度削減に向けた取り組み

CO₂排出量と輸送量



製品開発における取り組み

環境配慮型製品のガイドライン策定と運用

リンテックでは、環境配慮型の新規製品開発において、2010年2月にLCA*3を考慮した環境配慮型製品のガイドラインを策定し、2013年度は、14件(目標8件)の開発を行いました。また、2013年9月には、ISO14021*4に準拠した自己宣言環境配慮型製品のガイドラインも策定しました。今後もこれらのガイドラインを運用し、環境配慮型製品の開発を推進していきます。

環境負荷低減に役立つ製品の開発

リンテックグループでは、環境・エネルギー分野を製品開発重点テーマの一つに位置づけています。主な製品として、高い断熱性で節電・省エネルギーに貢献するウインドーフィルムや、プラスチック成形品と同質同素材を使用し、リサイクル・リユースの促進に貢献するラベル素材などがあります。今後も環境負荷低減と省エネルギーに役立つ製品の開発に力を注ぐとともに、設計プロセスにおける環境負荷低減を継続していきます。[WEB](#)

空調効率を高める新製品

「ウインコス レフテルZC05G NX/ZC06T NX」

リンテックは、節電・省エネルギー効果やガラス飛散防止効果を備えた建物用ウインドーフィルム「ウインコス」を製造・販売しています。2013年2月には、同シリーズの新製品「ウインコス レフテルZC05G NX/ZC06T NX」をラインアップしました。この製品を窓ガラスに貼ることで、日射の熱エネルギーや室内の暖房熱を反射し、通年で優れた日射調整効果を実現します。また、紫外線を99%カットし、ガラス飛散防止対策の効果も兼ね備えています。



「ウインコス レフテルZC05G NX/ZC06T NX」の施工例

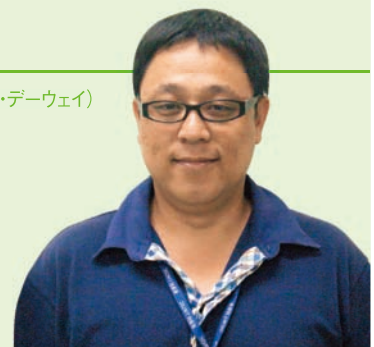
Voice 12

身近なところから地球温暖化対策

リンテック・アドバンス・テクノロジーズ(台湾)社 管理部 工務課 江 徳維 (ジャン・デーウェイ)

リンテック・アドバンス・テクノロジーズ(台湾)社では、環境保全活動として、法令法規の遵守はもとより節電、事業廃棄物再生率の向上、生活用紙の削減などを行っています。具体的には、エアコン温度の調整(26.5~

28℃に設定)や、ポスター貼付による節電・節水の社内啓発などの取り組みです。これからも継続的な活動と法令可視化を執行し、従業員が身近なところから地球温暖化対策を行えるように努めていきます。



*3 LCA: →P14に記載

*4 ISO14021: 「環境ラベルおよび宣言-自己宣言による環境主張(タイプII環境ラベリング)」のための国際標準規格。企業自らが基準を設け、これを満たすことでラベルを付与することができる。

[WEB](#) 以下の情報はCSRサイトで詳細を御覧ください。
太陽光発電、物流におけるエネルギー使用量、CO₂排出量削減の取り組み/LNGへの燃料転換、照明用電力の削減/琳得科(蘇州)科技有限公司、環境配慮型粘着剤を採用したラベル素材

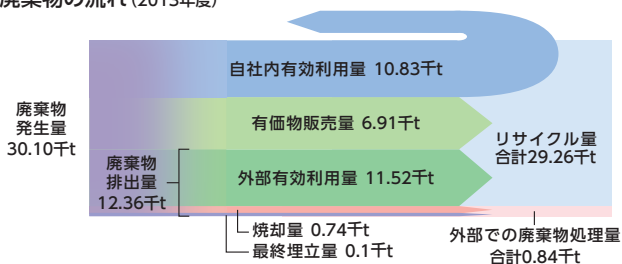
廃棄物・用水使用量の削減

循環型社会の実現に向け、廃棄物削減に取り組むとともに、節水と回収水の再利用、排水基準の遵守、排水水質にも十分に注意を払っています。

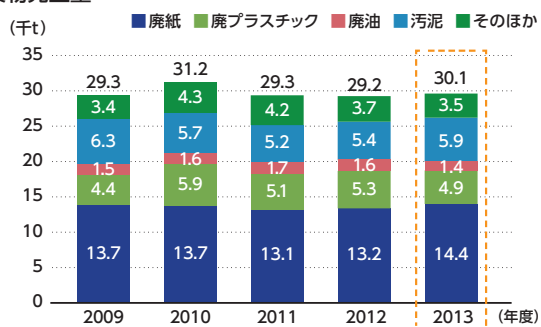
廃棄物の発生量と有効利用量

リンテックにおける2013年度の製造口スを含めた廃棄物発生量は30.10千tで、廃棄物排出量は12.36千tとなりました。このうち11.52千tは外部で再資源化され、それ以外の0.84千tは委託している廃棄物処理業者により、適正に処分されました。2013年度の最終埋立比率*1は約0.3%となり、目標(0.2%以下)は達成できませんでしたが、2007年度から継続して、最終埋立比率1.0%以下のゼロエミッション*2を達成しています。2014年度から2016年度における廃棄物発生量は、対前年度発生量の0.1%削減を目指しています。

廃棄物の流れ (2013年度)



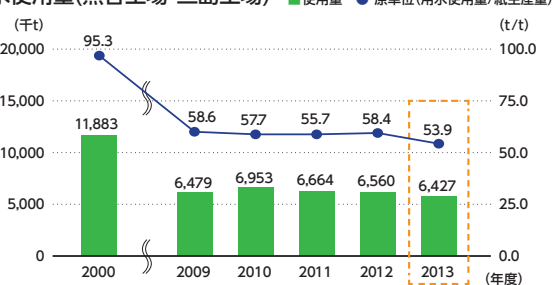
廃棄物発生量



用水使用量と節水対策

リンテックにおける2013年度の用水使用量は6,934千tでした。このうち約93%を製紙部門がある熊谷工場と三島工場で使用しています。生産工程における用水使用量の削減により、両工場の2013年度の用水使用量は前年度比で約2%減少、用水原単位(紙生産量当たり)は前年度から4.5t/t減少しました。節水対策として、製紙部門の各工程で用水量の削減に取り組むほか、配管の見直しや漏水対策を行っています。また、回収水の再利用による用水と排水の削減を図っています。2014年度から2016年度は原単位比で対前年度2%削減を目指しています。WEB

用水使用量(熊谷工場・三島工場)



排水量削減と排水水質の改善

リンテックにおける2013年度の排水量は6,666千t/年でした。その約94%(約6,235千t)が熊谷工場と三島工場からの排水となっています。製紙工程における配管ラインの洗浄工程の見直しにより、用水量と排水量の削減に努めています。今後も継続して排水処理設備の更新を行い、排水水質のさらなる向上に取り組んでいきます。WEB

Voice 13

市の表彰を受けた、廃棄物リサイクル

龍野工場 設備技術課 課長代理 井口 肇浩

龍野工場では、リンテックグループの各工場が実施している3R(リデュース、リユース、リサイクル)の取り組みを徹底しています。また、場内の剪定枝(果樹の生育や結実の調節のため、切りそろえられた枝の切り

くず)や刈り草を腐葉土化し植栽に利用したことや、可燃ごみをサーマルリサイクルして蒸気に変換していることが評価され、たつの市から表彰されました。



*1 最終埋立比率: 次式で求められる数値。最終埋立比率=最終埋立量/廃棄物発生量×100
 *2 ゼロエミッション: リンテックでは、最終埋立比率が1%以下であることが基準。
 *3 PRTR: Pollutant Release and Transfer Register(化学物質排出把握管理促進法に基づく化学物質の排出移動量届出制度)の略称。化学物質の排出量・移動量に関するデータを把握・集計し、公表する仕組み。

*4 PCB: ポリ塩化ビフェニルの略称。PCBを含む廃棄物については、PCB特別措置法(ポリ塩化ビフェニル廃棄物の適正な処理の推進に関する特別措置法)により、その適正な保管・管理・処理が義務づけられている。
 *5 REACH規則: →P22に記載

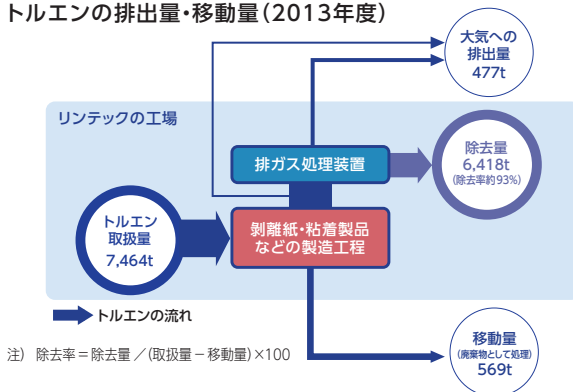
環境負荷物質の削減

国内外における関連法令や各種規制を遵守し、環境に負荷を与える化学物質の削減に努めています。

PRTR*³への対応

リンテックが2013年度に届け出たPRTR対象物質は8物質で、総取扱量は7,542tでした。取扱量が最も多かった物質はトルエンで、その取扱量は7,464tとなり、前年取扱量(7,796t)より332t減少しました。トルエンの大気への排出量は477tで2012年度排出量(483t)より6t減少し、移動量は569tで前年度(803t)より234t減少しました。

トルエンの排出量・移動量(2013年度)



VOC(揮発性有機化合物)の削減

無溶剤化率の推移

リンテックでは有機溶剤使用量の削減に向け、剥離紙に用いる剥離剤と印刷関連粘着製品に用いる粘着剤の無溶剤化を進めています。2013年度の剥離紙の無溶剤化率(生産量ベース)は53%、印刷関連粘着製品の無溶剤化率(販売量ベース)は71%でした。VOCの大気放出量削減は、製品設計と排ガス処理設備面の両面から対策を推進しました。無溶剤化へ切り替え可能な製品は、主要なものは完了しており、排ガス処理装置の設置も完了していますが、引き続き、無溶剤化率の数値管理を行い、環境負荷低減を進めていきます。

無溶剤化率
(2013年度販売量ベース)

71%

PCB*⁴の適正管理

リンテックでは、PCBを含む廃棄物を適正に保管・管理しています。2012年度の報告台数38台のうち、低濃度廃棄物6台を2013年7月に処分しました。しかし、2014年3月の再調査により、新たに7台該当することが判明しました。該当機器39台のうち9台は、低濃度廃棄物(3台)と蛍光灯安定器(6台)であり、法令に基づき厳重に管理・保管しています。

化学物質管理、各種環境規則への対応

2013年12月、REACH規則*⁵において、情報伝達の義務があるSVHC(高懸念物質)は151物質となりました。リンテックではこのREACH規則をはじめ、各種環境規則への対応を進め、原材料の環境負荷物質含有調査を行い、必要な情報についてお客様に開示しています。今後、ますます重要となる製品含有化学物質の管理の効率化を図るとともに、各種規制に配慮し、対象化学物質の削減、代替物質への切り替えを促進しています。

Voice 14

製品開発の各工程で、環境に配慮

研究所 研究企画部 研究企画室 係長 高野 明彦

研究所ではVOC削減に向けてさまざまな取り組みを推進しています。有機溶剤を含有する材料からエマルジョン*⁶系の材料への設計変更を行い、開発初期段階においても環境負荷物質を排除した設計を推進。

特に環境に配慮した製品については、LCA*⁷評価を実施しています。「環境配慮型製品」はもちろん、それ以外の製品についても環境を考慮した設計開発に取り組んでいます。



*6 エマルジョン：乳濁液ともいわれ、液体の中に、混じり合うことのないほかの液体が粒状になって分散している状態のもの。牛乳やマヨネーズなどもその一例。

*7 LCA：→P14に記載

以下の情報はCSRサイトで詳細を御覧ください。
3Rの取り組み(リデュース、リユース、リサイクル各事例)、
用水使用から排水までの工程、熊谷工場・三島工場排水水質、
PCBの適正保管・管理状況、災害や化学物質の漏洩事故などを想定した訓練、
印刷関連粘着製品と剥離紙の無溶剤化率、製品情報提出の流れ

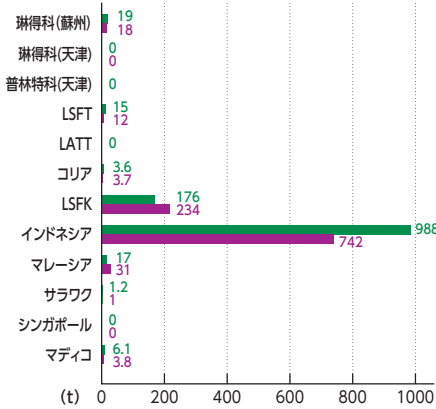
海外グループ12社の環境保全活動

グローバル企業としての責任を果たすため、海外グループ各社における環境保全活動を世界各地で推進しています。

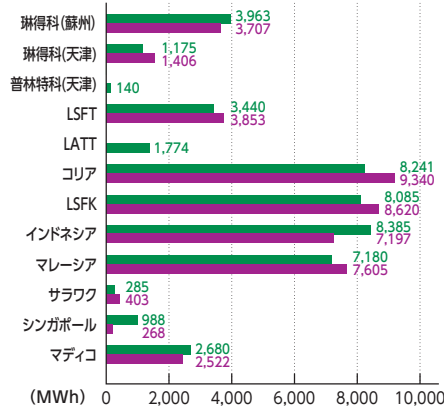
環境パフォーマンスデータ 海外グループ会社12社における環境パフォーマンスデータは以下になります。

2013年データ(集計期間:2013年1月1日から2013年12月31日まで) 2012年データ(集計期間:2012年1月1日から2012年12月31日まで)

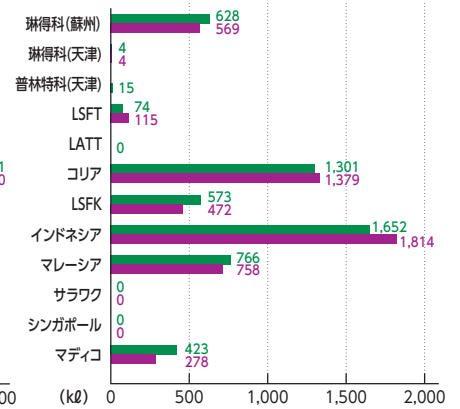
VOC排出量



電力使用量



燃料(軽油/天然ガス)使用量(原油換算)



注) 1. VOCは、トルエン、メチルエチルケトンを対象としています。2. 燃料使用量の原油換算に用いた各燃料の発熱量は、省エネルギー法施行規則第4条に規定されている数値を使用しています。3. LSFT:リンテック・スペシャリティィー・フィルムズ(台湾)社 LATT:リンテック・アドバンス・テクノロジーズ(台湾)社 LSFK:リンテック・スペシャリティィー・フィルムズ(韓国)社

琳得科(蘇州)科技有限公司

所在地:中国 江蘇省蘇州新区 従業員数:206人
主要事業:印刷材・産業工材および洋紙・加工材関連製品の製造販売

第2工棟の竣工に伴う使用電力の増加に対応するため、第2工棟の配電室内に第1工棟同様の電力監視装置を設置しました。電力使用状況をラインごとに監視することで電力管理を徹底し、工場の省エネルギー化につなげています。



電力監視装置制御画面

工務科
張 旭東
(ザン・シートン)



琳得科(天津)実業有限公司

所在地:中国 天津市南開区 従業員数:91人
主要事業:印刷材・産業工材関連製品の製造販売

社内照明のLED化を進めるなど、省エネルギー活動を継続的に実施しています。また、全従業員にリンテックグループのCSR経営を浸透させるため、2013年9月には「ソーシャルメディアポリシー*」に関する勉強会も行いました。



社内のLED照明

総務・人事部
賈 軍
(ジャー・ジュン)



普林特科(天津)標簽有限公司

所在地:中国 天津市西青經濟開發区 従業員数:104人
主要事業:印刷材・産業工材関連製品の製造販売

2013年11月に、従業員全員で生物多様性に関する勉強会を実施しました。中国における動植物の生態系や私たち人間との関係などを学び合い、生物多様性保全への意識向上の良いきっかけとなりました。



生物多様性の勉強会

品質保証室
張 理
(ジャン・クン)



リンテック・スペシャリティィー・フィルムズ(台湾)社

所在地:台湾 台南市善化区 従業員数:96人
主要事業:電子・光学関連製品の製造販売

排ガス処理装置の停止時に炉内温度を維持するため、天然ガスを使用していますが、省エネタイマーモードの増設や燃料使用量の監視、適切なメンテナンスにより、原油換算で2012年対比年間41klの削減となりました。



排ガス処理装置の外観

総務課
蔡 清祥
(サイ・セイショウ)



* ソーシャルメディアポリシー: →P17に記載

リンテック・アドバンスド・テクノロジーズ(台湾)社

所在地:台湾 高雄市前鎮加工出口区 従業員数:67人
主要事業:電子・光学関連製品の製造販売

2014年3月、リンテック・アドバンスド・テクノロジーズ(台湾)社はISO14001のグローバル統合認証を取得しました。今後も引き続き、全従業員の環境意識の向上を図りながら、省エネルギーや資源節約に努めていきます。



各部門の内部監査員を対象とした講習会

管理部 工務課
江 徳維
(ジャン・デーウェイ)



リンテック・코리아社

所在地:韓国 忠清北道清原郡 従業員数:71人
主要事業:電子・光学関連製品の製造販売

2013年10月に生物多様性の保全活動の一環として、近隣の公園に従業員20人が集まり、清掃活動を行いました。今後も環境保全活動や環境教育を行い、全従業員に対して生物多様性への意識を啓発していきます。



近隣の公園で行った清掃活動

製造部
金 辰熙
(キム・ジンヒ)



リンテック・スペシャリティー・フィルムズ(韓国)社

所在地:韓国 京畿道平澤市 従業員数:123人
主要事業:電子・光学関連製品の製造販売

2013年6月より、会社から排出される液体廃棄物の処理方法を変更し、燃料化処理を実施しています。この取り組みによって、産業廃棄物のリサイクル率が向上し、CO₂発生量の低減につながりました。



燃料化処理施設

環境安全課
白 東国
(ペク・ドンク)



リンテック・インドネシア社

所在地:インドネシア 西ジャワ州ボゴール 従業員数:330人
主要事業:印刷材・産業工材関連製品の製造販売

2013年12月に、生物多様性保全に関する外部団体の講習を受けました。その後、受講した従業員が講師となり、全従業員と講演内容を共有しています。今回得た知識を基に、今後はより具体的な環境保全活動を進めていきます。



生物多様性講演会

安全・環境部
Ketut
(クトゥットウ)



リンテック・インダストリーズ(マレーシア)社

所在地:マレーシア ペナン州ブキ・メルタジャム 従業員数:93人
主要事業:電子・光学関連製品の製造販売

2013年5月、リサイクル活動の啓発を目的に、従業員を対象とした使用済みクッキングオイルからのせっけんづくり講習会を開催しました。今後も身近な題材を通じて、従業員の環境意識を高め、環境保全活動を推進していきます。



リサイクルせっけんづくり講習会

製造部
Siti Hidayah Binti Ayob
(シティ・ヒダヤ・ビンティアヨブ)



リンテック・インダストリーズ(サラワク)社

所在地:マレーシア サラワク州クチン 従業員数:26人
主要事業:電子・光学関連製品の製造販売

リンテック・インダストリーズ(サラワク)社では、2013年9月にISO14001のグローバル統合認証を取得しました。今後は、これまで以上に環境保全への意識を高め、環境に配慮して業務を進めていきます。



ISO14001の認証書を手に記念撮影

財務・管理部門
Christina Teo
(クリスティーナ・ティオ)



リンテック・シンガポール社

所在地:シンガポール サイバーハブ 従業員数:85人
主要事業:印刷材・産業工材および電子・光学関連製品の製造販売

リンテック・シンガポール社では、ISO14001のグローバル統合認証を取得する以前から使用済み用紙のリサイクル活動を行っており、2013年は、各部署、各個人単位でさらに力を入れてきました。今後は環境配慮の意識を持ちながら、本活動を継続していきます。



使用済み用紙の整理箱

人事部
Cindy Soh
(シンディー・ソウ)



マディコ社

所在地:アメリカ マサチューセッツ州ウーバン 従業員数:272人
主要事業:印刷材・産業工材関連製品の製造販売

マディコ社は、環境保全を目的とした梱包材再生プログラムにおける活動が認められ、大手サプライヤーよりプラチナ賞を授与されました。2013年には113tのパレット、エンドプラグ・コアなどの梱包材を再生するなど、環境配慮の意識を高めています。



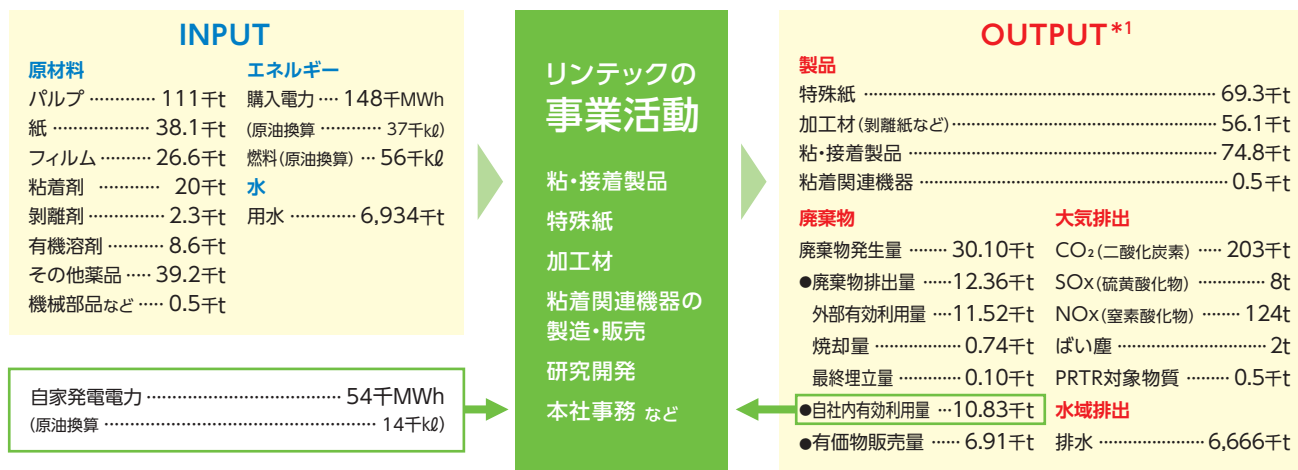
活動チーム
メンバー

リンテックと環境の関わり

事業活動に伴う廃棄物やPRTR対象物質の排出、排水などによる環境負荷の低減を図るため、生産の効率化や製造方法の改善などに取り組んでいます。

マテリアルフロー、環境保全コストの集計の考え方 1. 集計範囲：リンテック(株)および東京リンテック加工(株)とし、そのほかの関係会社は含んでいません。
2. 集計対象期間：2013年4月1日～2014年3月31日

2013年度 マテリアルフロー



環境会計

リンテックでは、環境会計によって環境保全コストおよび効果の把握に努め、環境保全活動を効果的かつ効率的に推進しています。2013年度の投資額*2は308百万円、費用額*3は2,897百万円でした。投資額については、2012年度に

大規模な環境設備投資(コージェネ設備・太陽光発電設備)が終了したことにより1,283百万円減少しました。一方、費用額は、環境対応テーマが2012年度の30件から13件に減少したため、307百万円減少しました。

2013年度 環境保全コスト

(単位:百万円)

分類	対象となる設備	投資額	主な取り組みの内容	費用額	
1.事業エリア内コスト	① 公害防止コスト				
	a.大気汚染防止	排ガス処理設備、脱臭装置付帯工事	85	大気汚染防止設備維持管理	504
	b.水質汚濁防止	排水処理設備、白水回収設備	42	水質汚濁防止設備維持管理	115
	c.公害防止	-	-	PCB処理、スラッジ処理費	24
	② 地球環境保全コスト				
	a.地球温暖化防止	燃料転換設備	39	燃料転換設備	176
b.省エネルギー	蒸気の減圧エネルギー回収	105	自家発電設備維持管理	564	
③ 資源循環コスト	a.資源の効率的な利用	損紙処理設備	13	古紙処理設備維持管理	305
	b.廃棄物の減量化・削減・リサイクル	焼却炉ボイラー固形燃料化設備	24	焼却炉ボイラー設備維持管理、廃棄物処理	389
2.上・下流コスト	① 副資材の回収・再生・再使用	-	-	パレット、紙管の回収・再生・再使用など	68
	② グリーン調達・グリーン購入	-	-	環境配慮型事務用消耗品費の購入	5
3.管理活動コスト	① 環境教育	-	-	セミナー、講習会など	2
	② 環境負荷の監視・測定	環境計測器	0	製品、大気、水質の分析	32
	③ 環境管理システムの構築、認証取得	-	-	ISO14001審査 森林認証	4
	④ 環境保全対策組織運営	-	-	環境保全の運営費用	327
	⑤ 環境情報開示	-	-	CSRレポート作成、エコプロダクツ出展など	28
4.研究開発コスト	-	-	環境保全に関する研究開発	307	
5.環境改善コスト	-	-	構内美化	28	
6.環境損傷対応コスト	-	-	汚染負荷量賦課金の負担	19	
合計	-	308	-	2,897	

注) 排ガス処理設備投資額には、予備品・雑工事費を含みます。

*1 OUTPUTには内販は含んでいません。
*2 投資額：対象期間における環境保全を目的とした支出額で、環境保全効果が数期にわたり持続し、その期間に費用化されていくもの。

*3 費用額：環境保全を目的とした財・サービスの費消により発生する費用または損失。

以下の情報はCSRサイトで詳細を御覧ください。
2013年度マテリアルフロー詳細、環境保全効果

第三者意見

ジャパン・フォー・サステナビリティ 多田 博之氏

非営利組織ジャパン・フォー・サステナビリティの理事長であり、法政大学客員教授、東北大学大学院環境科学研究科教授、各種官庁の委員などを務める。



リンテックグループCSRレポート2014を、過去数年のレポートとも比較しながら、じっくりと拝読させていただきました。本年はトップが交代するという大きな変化の年になりましたが、トップメッセージを拝見すると、「CSRを経営の基盤として貫くべきものだという自覚を新たにしています」という西尾新社長のコメントが冒頭に見られ、この会社のCSRがいささかもぶれていないことが分かります。

リンテックCSRの特徴は、事業の中核ともいべき中期計画や経営戦略に堂々とCSRを連動させようとしているところにあり、こうしたトップダウンによるCSR経営に邁進されるとともに、LINTEC WAYと呼ばれる社是を育む10の心得を新たに制定され、この浸透を通してボトムアップのCSRをより活性化させようとする方向性は素晴らしいと思います。

BCMSと社会貢献、二つの特集を興味深く読ませていただきましたが、物事に対して正面から取り組み、地道に継続す

るというこの会社の底力が感じられる内容になっています。

新中期経営計画：LIP-2016においては、「グローバル展開」と「革新的な新製品の創出」が最重要課題であるとの認識がトップから示されており、これらに具体的にどう貢献できるかが、リンテックCSRの正念場ともいえます。

前者については、言うまでもなくコーポレートガバナンスの全社的な強化が不可欠と考えますが、16ページに体制図が示されているだけなのは、やや物足りない印象を持ちました。ガバナンスはESG(環境・社会・ガバナンス)の3本柱の一角でもあり、どのように今後グローバルなガバナンスを構築していくのか、明示して欲しいと考えます。

後者は企業のコアコンピタンスともいべき、会社存続のための生命線ですが、これとCSRとをどう有機的につなげていくかは、確たる戦略が必要です。私は、今まであまり言及されることがなかった、この会社の経営理念「明日を考え、今日を築こう」を、ぜひ社是の一つである「創造」とつなげて、活かしていただきたいと、ここで提言しておきます。

CSRの六つの基本姿勢は見直しが必要です。既述したガバナンスを組み込むこと。安全防災・健康では狭く、より広義のES(従業員満足)に拡充すべきではないかということ。そして環境において設定されているような、より定量的な目標を社会面などでも創設すること。これらが今後の現実的な課題ではないかと、最後に指摘させていただきます。

第三者意見を受けて

多田様には2012年度版より当社のCSRレポートिंगに対してご助言を頂戴しております。2013年度版では、社是「至誠と創造」から成る当社の経営姿勢を取り上げていただきありがとうございます。頂いたご意見を励みとしてCSR経営を積極的に推進してまいります。2014年度より新たに策定したLINTEC WAYは、社会とともに当社が持続的成長を遂げるためにグループ全従業員が共有すべき価値観を表しており、一個人としても再認識しておかなければならないことです。CSR勉強会などを通じてさらなる浸透を図ってまいります。

ご指摘のとおり、グローバル展開と新製品の創出は当社の極めて重要なテーマです。グローバル展開におけるガバナンスについては、アジア地域に海外統括会社を設置

するなど、今後もガバナンス体制の強化を進めていきます。新製品の創出については、2012年度から取り組みを始めてきたCSR懇談会をさらに発展させ、社会的課題の解決などについて、組織横断的メンバーによるワークショップを実施し、攻めのCSRを実践していきます。

CSR基本姿勢の見直しについては、2014年度中にマテリアリティ(環境、社会、ガバナンスに関する重要性)の特定作業を計画しており、2013年版でご指摘のあった評価指標の策定につなげます。

今後もCSRを経営の基盤とし、社会とともに持続的成長を遂げる企業体を目指してまいります。

代表取締役社長 西尾 弘之

編集後記

トップメッセージでは社是「至誠と創造」を原点に、社会の期待に応える新しい事業づくりについて触れています。また、特集1では、全社BCMS(事業継続マネジメントシステム)の構築について、各拠点の活動や構築までの流れを紹介しています。

今後もBCMSのさらなる浸透を図っていきます。特集2では、地域に根ざした社会貢献活動について紹介しています。ステークホルダーとの対話を進めながら社会的な課題に応えられる企業を目指してCSR活動を継続していきます。



「リンテックグループCSRレポート2014」制作プロジェクトメンバー

【表紙について】

「至誠」を表すブルーと、「創造」を表すレッドの重なりが、コーポレートカラーであるリンテックブルーになることを表現しています。リンテックグループのCSR活動は社是「至誠と創造」を根幹としており、全従業員が一丸となって取り組んでいくというメッセージを伝えています。

本報告書の内容に関するご意見、ご質問などがございましたら、下記までお問い合わせください。

リンテック株式会社 CSR推進室

〒173-0001 東京都板橋区本町23-23
TEL:03-5248-7711 FAX:03-5248-7760
E-mail:csr@post.lintec.co.jp

本報告書はインターネットでもご覧いただけます。
URL <http://www.lintec.co.jp/csr/>



植物インキを使用しています。

当社高級印刷用紙「ニューアージュ」を使用しています。